

F D活動報告書

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)

第3号

平成19年度秋学期



関西大学大学院会計研究科

教務・FD委員会

平成21年3月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法.....	2
(5) 対象科目リスト.....	3
II 19年度秋学期 授業評価アンケート結果概要.....	4
III 19年度授業評価アンケートフォーム.....	49
IV 講演会	52

はじめに

FD 活動は日常的に教育改善を行うのに必須の活動である。本研究科では、教育内容の改善に向けて、不断の努力を行っている。とはいえ、教育効果は教授者と学習者の双方のインターアクションの在り方に依存するという関係にある。そこで、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価を行ってきた。この授業評価はFD活動の柱となってきている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及びFD委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

繰り返しになるが、以上のような授業評価アンケートは、本研究科が専門職大学院としての教育水準を継続的に向上させることを目的として、それを実施し、その結果を分析し、教育にフィードバックするためのものであり、FD活動のひとつである。また、第三者評価制度の導入（「学校教育の一部を改正する法律」（2002年）による）により、専門職大学院としての研究教育活動についての評価を、評価機関から定期的に受けることが求められている。これは、大学教育の質に関する新たな保証システムとして導入された制度であり、本研究科もこの評価を受けることを意識して普段から教育水準の維持・向上に努めている。

一昨年度(平成18年度)は、本研究科には1年次生のみであったこととFD報告書の取りまとめのタイミングの関係で、平成18年度春学期に開催されたすべての1年次配当科目に対する授業評価を収録した。昨年度(平成19年度)は、1年次配当科目・2年次配当科目すべての講義を開講しており、授業評価アンケートをすべての講義で実施し、FD報告書には平成18年度秋学期科目と平成19年度春学期科目に対する授業評価を収録した。しかし、異なる年度の評価を同時に収録することの不便さを経験したため、本年度のFD報告書第3号は、平成19年度の秋学期科目のみ収録することとした。なお、FD報告書第4号を平成20年度春学期科目と秋学期科目のすべてを収録する予定であり、第4号から学年歴と対応することになる。

以上の授業評価に加えて、①昨年度から1年次・2年次で共通問題による試験を年度末に行い、試験結果をFD活動に反映させることとした、②スタッフによる教科書作成を企画し、可能なものから発行していること、③学生の学習力の差に配慮したカリキュラム内外での対応を実施していること、④本研究科の教育顧問や客員教授による有益なセミナーを実施していること、⑤非常勤講師等とのコミュニケーションの充実をはかり教授者のインセンティブを高めていること、⑥これらに関して日常的に話し合いの場を設けていること、など具体的にFD活動を充実させてきた。

すべての教職員が本研究科の設立の趣旨を確認し、必要な教育改善は絶え間なく行うこととしているが、このFD報告書の作成を通じてあらためて問題を真摯に分析する機会としている。

平成21年3月
会計研究科長 柴 健次

授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、原則として、平成 19 年度秋学期に開催されたすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

個別演習科目であるアカデミック・ソリューション、プロフェッショナル・ソリューション、論文指導・修士論文を除き、すべての科目において 15 回の講義が実施される。最終講義日の前回である第 14 回目（個別演習科目では 29 回目）の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務室に返却され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容及び方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

専任教員が担当する 19 年度秋学期科目のうち 18 年度秋学期にも開講していた科目では、18 年度春学期授業評価アンケートとの経年比較を行い、18 年度秋学期アンケート結果を踏まえた授業改善が有効であったかを検証した。非常勤講師が担当する授業科目については、担当教員へアンケート集計結果及び本報告書を送付して通覧を依頼している。

(5) 対象科目リスト (索引)

類別		授業科目	配当 年次	19年度 春学期	類別	授業科目	配当 年次	19年度 春学期
基本科目群	理論科目	必修科目	上級簿記	1	理論科目	英文会計論	2	
		財務会計論	1			会計戦略論	2	
		上級原価計算論	1			無形資産会計論	2	
		上級管理会計論	1			金融商品会計論	2	
		監査制度論	1			倒産分析論	2	31
		監査基準	1			サプライチェーン・マネジメント論	2	32
		企業法入門	1			プロダクト・マネジメント論	2	
		実践経営管理論	1			国際税務戦略論	2	
		会計専門職業倫理	2			ニュー・パブリック・マネジメント論	2	
		会計基準論	1	4		非営利会計論	2	
		会計制度論	1	5		国際公会計制度論	2	
		財務分析	1			保証業務論	2	
		会計情報システム	1	6		システム監査論	2	
		上級税務会計論	1			内部監査論	2	
		公会計理論	1			リスク・マネジメント監査論	2	
		監査実施論	1			不正摘発監査論	2	
		監査報告論	1			法人税法	2	
		商法	1			行政法	2	
		会社法	1	7		起業論	2	33
		コーポレート・ガバナンス論	1			組織再編論	2	34
		インベストメント論	1			国際経営論	2	
		コーポレート・ファイナンス論	1	8		リスク分析論	2	
		ミクロ経済学	1			中小企業金融論	1・2	
		統計学	1			公開戦略論	2	
		国際会計基準論	2	9		企業再生論	2	
		国際会計制度論	2			年金財政論	2	35
		戦略管理会計論	2	10		国際財務戦略論	2	36
		企業価値計算論	2			企業経済学	2	
		上級税務戦略論	2			公共経済学	2	37
		自治体会計論	2	11		情報処理論	2	
		政府会計論	2			X B R L 論	2	
		公監査論	2			特殊講義 (各テーマ)	1・2	
		国際監査制度論	2			国際会計事例研究	2	
		証券取引法	2			国際管理会計事例研究	2	
		租税法	2			国際税務会計事例研究	2	
		民法	2			国際公会計事例研究	2	
		インベスター・リレーションズ論	2	12		国際監査事例研究	2	
		資本市場論	2			リサーチ・メソドロジー	2	
		マクロ経済学	2	13		国際コミュニケーション論	2	
		会計事例研究	1			財務会計系		38
		管理会計事例研究	1			管理会計系		39
		監査事例研究	1	14		税務会計系		
		基本会計プログラム演習	1	15		公会計系		40
		基本監査プログラム演習	1			監査系		
		税務会計事例研究	2			法律系		41
		公会計・公監査事例研究	2			経営系		42
		判例演習	2			ファイナンス系		43
		実践会計プログラム演習	2	16		経済・統計系		44
		実践監査プログラム演習	2			IT・ビジネススキル系		45
		アカデミック・ソリューション	1	17-25		個別演習科目 (アカデミック・ソリューション)		46
		プロフェッショナル・ソリューション	2	26-30		個別演習科目 (プロフェッショナル・ソリューション)		47
		論文指導・修士論文	2			系別平均		48

Ⅱ. 19 年度秋学期 授業評価アンケート結果概要

科目: 会計基準論

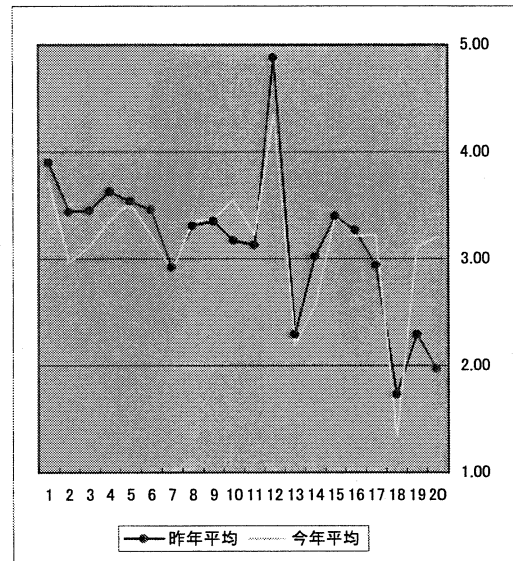
配当年次: 1年次

受講者数: 67

開講時期: 木2

回答者数: 54

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.90	3.72	4	5	1
2	3.44	2.96	3	5	1
3	3.45	3.11	3	5	1
4	3.63	3.36	3	5	1
5	3.54	3.52	4	5	1
6	3.46	3.23	4	5	1
7	2.92	2.89	3	5	1
8	3.31	3.35	3	5	1
9	3.35	3.38	4	5	1
10	3.17	3.55	4	5	1
11	3.13	3.23	4	5	1
12	4.88	4.36	5	5	1
13	2.29	2.19	1	5	1
14	3.02	2.57	3	5	1
15	3.40	3.40	4	5	1
16	3.27	3.21	4	5	1
17	2.94	3.23	4	5	1
18	1.73	1.33	1	5	1
19	2.29	3.11	3	5	1
20	1.97	3.20	4	5	1
回答者数	48	54			



受講生の傾向

出席状況は良好であったが、受講生のレベルにバラツキがあった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義への集中力を持続させるために、授業時間帯を3限から2限に移した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

集中力が持続する午前中の授業に切り替える。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

習熟度確認頻度を増やす必要がある。

科目: 会計制度論

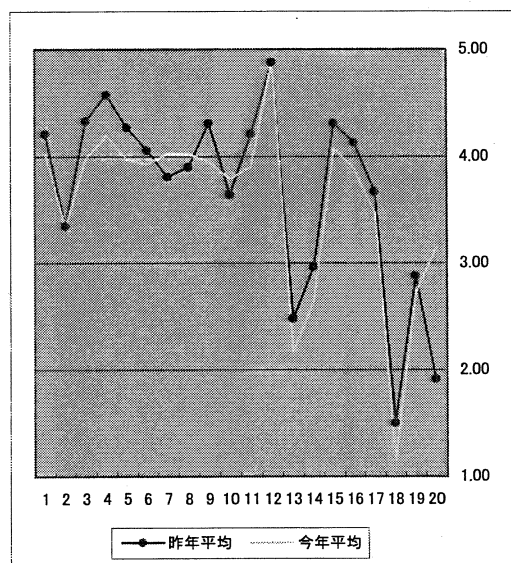
配当年次: 1年次

受講者数: 80

開講時限: 金3

回答者数: 44

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.21	4.02	4	5	2
2	3.35	3.33	3	5	1
3	4.33	3.98	4	5	2
4	4.58	4.19	4	5	2
5	4.27	3.98	4	5	1
6	4.06	3.93	4	5	1
7	3.81	4.02	4	5	2
8	3.90	4.02	4	5	2
9	4.31	3.95	4	5	3
10	3.64	3.79	4	5	2
11	4.21	3.90	4	5	1
12	4.88	4.88	5	5	3
13	2.48	2.17	1	5	1
14	2.96	2.64	2	5	1
15	4.31	4.07	4	5	2
16	4.13	3.88	4	5	1
17	3.67	3.48	3	5	1
18	1.50	1.15	1	1	1
19	2.88	2.71	3	4	1
20	1.91	3.14	3	5	1
回答者数	48	44			



受講生の傾向

前年度比較でいうと、教員評価に係る項目(1から11と15から17)に関して、4項目が高まり、残りは下がったが、全体として変化は軽微であった。

学生自身の評価(項目12から14)を見ると、非常に出席率が高いがそれほど予習復習に時間をかけていないという傾向に変化はなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年同様に、学生に原典に当たることを強く要求しており、参考書等の記述との相違を実感させるようにした。その上で、自ら考える力をつける方法を具体的に提示した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

授業の進度を落として理解力を高めるとしていたが、進度は余り改善されなかったが理解力は高まったと評価されている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

自ら考える習慣のない(ある意味勉強する習慣のない)学生にいかにもそのコツを教えるかが重要であることが実感されるので、これまで以上にこのための工夫を行う。

科 目: 会計情報システム

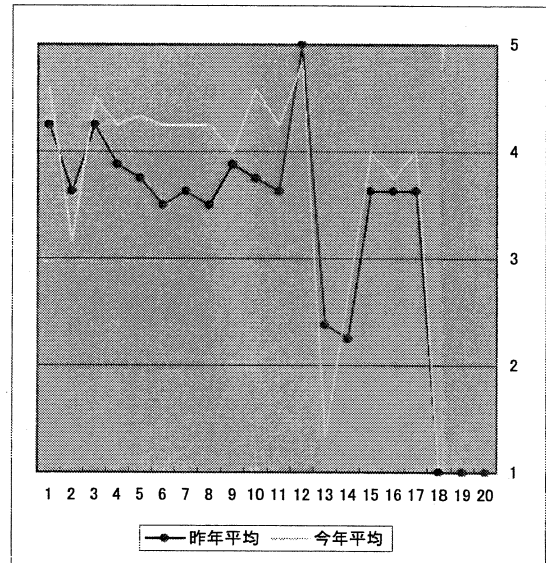
配当年次: 1年次

開講時限: 金2

受講者数: 13

回答者数: 12

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.58	5	5	4
2	3.63	3.17	3	4	3
3	4.25	4.50	4・5	5	4
4	3.88	4.25	4	5	3
5	3.75	4.33	4	5	3
6	3.50	4.25	4	5	3
7	3.63	4.25	4	5	2
8	3.50	4.25	4	5	3
9	3.88	4.00	4	5	2
10	3.75	4.58	5	5	4
11	3.63	4.25	5	5	3
12	5.00	4.83	5	5	4
13	2.38	1.33	1	3	1
14	2.25	2.67	3	5	1
15	3.63	4.00	4	5	3
16	3.63	3.75	4	5	3
17	3.63	4.00	4	5	3
18	1.00	1.00	1	1	1
19	1.00	0.00	0	0	0
20	1.00	0.00	0	0	0
回答者数	8	12			



受講生の傾向

講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で、遅参者は少なかった。

教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている受講生が多く、私語はほとんどない状態であった。

プログラミングに関する小テストでは、完成に至らないまでも、難しいプログラムを何とか工夫して完成させようという意欲が感じられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

プログラムを電子データで配布するのではなく、受講生自身にそれを入力させることで、プログラミングの習熟度が高まるようにした。プログラムの内容を逐条解説することで、コンピュータの処理特性とデータ・フローを理解できるようにした。

コンピュータの不得手な受講生には、入力時間に操作の指示やアドバイスを与え、また、受講生どおしが適宜相談しやすいような環境作りをした。

バグ取り作業は受講生とマン・ツウ・マンで行い、個々の習熟度に応じてプログラミングの理解を促すと共に、受講生全員のプログラムが正常に稼動するようにした。

日常業務の支援という現実的な観点から、会計情報システムの全体像とそのサブシステムの在り方を考察する講義展開を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

プログラミングの習熟度をさらに高めることができる工夫を凝らしていく。

コンピュータの得手不得手により、学生一人ひとりの理解度に差があるので、それに応じた講義展開を考える。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

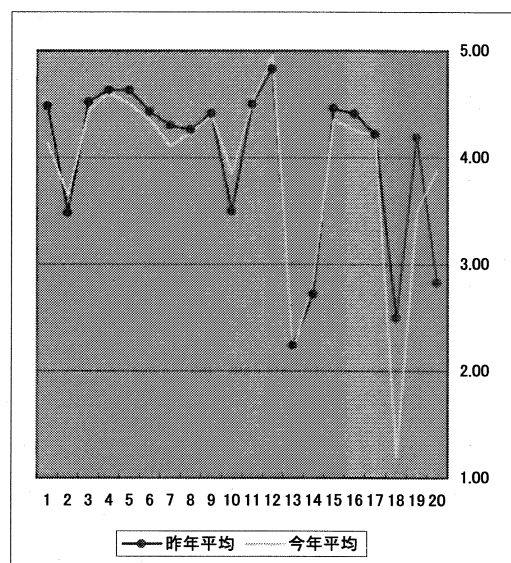
プログラミングの習熟度をさらに高めることができる工夫を凝らしていく。

この講義科目に対して興味関心が高まるような工夫を凝らしていく。

科 目: 会社法
配当年次: 1年次
受講者数: 76

開講時限: 木4
回答者数: 50

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.48	4.13	5	5	1
2	3.48	3.65	3	5	2
3	4.52	4.44	5	5	3
4	4.63	4.60	5	5	3
5	4.63	4.50	5	5	3
6	4.43	4.35	4	5	3
7	4.30	4.11	4	5	2
8	4.26	4.23	4	5	3
9	4.41	4.40	4	5	3
10	3.50	3.85	5	5	1
11	4.50	4.52	5	5	3
12	4.83	4.96	5	5	4
13	2.24	2.19	1・2	5	1
14	2.72	2.85	2	5	1
15	4.46	4.36	5	5	3
16	4.41	4.26	4	5	3
17	4.22	4.20	5	5	2
18	2.50	1.20	1	1	1
19	4.19	3.50	4	5	1
20	2.83	3.88	3・4	5	3
回答者数	46	50			



受講生の傾向

会社法についてはこの科目で完結させなければならないため、かなりの分量をこなす必要があるが、これを負担に感じる学生が多いようである。

また、予習をしなければ理解は難しくなるのであるが、予習をしていない学生が見られる。

授業時には、まじめに取り組み理解しようという姿勢が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は授業のレジュメを授業のたびに配布をしていたが、今年度は一括してレジュメを配布し学生の予習の便宜を図った。

昨年度と同様に、理解度を確認するために、章ごとの学習で小テストをおこなった。

学生の理解が困難なところでは、時間をかけることとし、授業時間でおさまらないところでは補講を行って対応した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

1回ごとのレジュメを作成して配布していたが、次回の学習範囲等が明確にわかるように全回数または数回分のレジュメを作成し、配布するようにしたい。

広い範囲を効率よく授業する工夫をしなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業レジュメについては、会社法で完結していたが、企業法と会社法は連続する科目であるから、これらをまとめたレジュメを作成したい。

これによって、企業法授業時に会社法の授業をイメージすることができ、また会社法の授業時に企業法の授業内容を復習することもできる。

科目: コーポレート・ファイナンス論

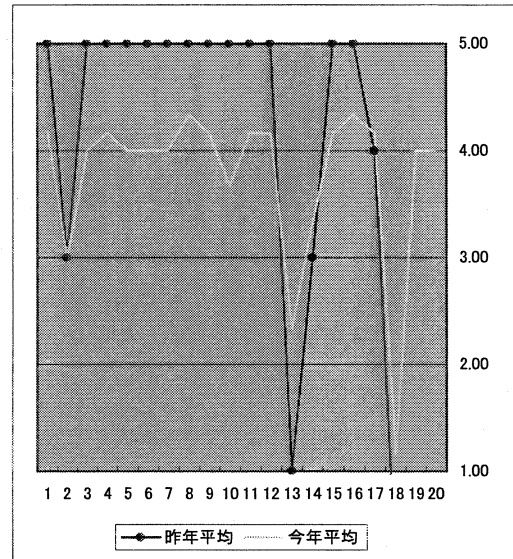
配当年次: 1年次

開講時期: 水1

受講者数: 7

回答者数: 6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.17	5	5	1
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.00	5	5	1
4	5.00	4.17	5	5	2
5	5.00	4.00	5	5	1
6	5.00	4.00	4	5	2
7	5.00	4.00	4	5	2
8	5.00	4.33	5	5	2
9	5.00	4.17	5	5	1
10	5.00	3.67	3・5	5	2
11	5.00	4.17	5	5	1
12	5.00	4.17	5	5	1
13	1.00	2.33	1・4	4	1
14	3.00	3.33	3	5	2
15	5.00	4.17	4	5	3
16	5.00	4.33	5	5	3
17	4.00	4.17	4	5	4
18	0.00	1.17	1	2	1
19	0.00	4.00	4	4	4
20	0.00	4.00	4	4	4
回答者数	1	6			



受講生の傾向

- 1) 出席率は比較的高かった。
- 2) 講義を聴く姿勢には問題は無いが、質問にはあまり反応しないことが多かった。
- 3) 基本的な理論の枠組みは理解されたと思われるが、応用的な分野までは進めなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 数値例を中心とする課題を多く提出させ、結果をフィードバックした。
- 2) 理論、数式、概念図、数値例を併せて理解できるよう、昨年以上に工夫した。
- 3) レジメは文章形式にし、後で確認できるようにした(昨年と同じ)。
- 4) 金融商品の基礎的な知識の説明を取り入れた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

- 1) 数値例をもっと多用することで、理解力を高める。
- 2) 企業経営自体、金融商品の基礎知識に乏しい受講生にもより配慮する。
- 3) 一方的な講義ではなく、講義の中により質疑の時間を取り入れる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- 1) 文章形式のレジメを予習用に事前に配布し、理解度を一段と上げるようにする。
- 2) 今年以上に数値例を中心とした課題を増やす。

科 目: 国際会計基準論

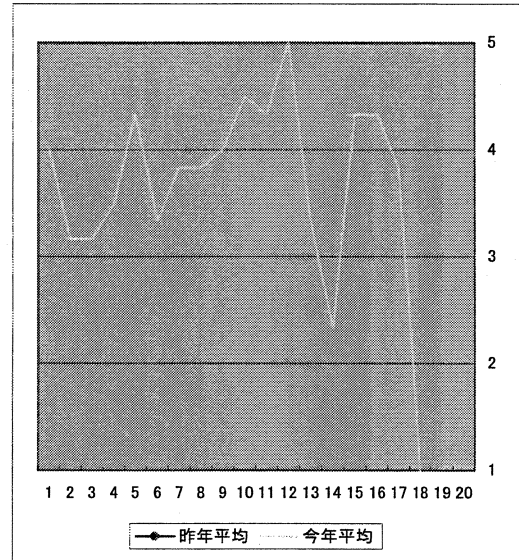
配当年次: 2年次

開講時限: 水3

受講者数: 10

回答者数: 7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	4	5	3
2	-	3.17	3	4	3
3	-	3.17	3	4	3
4	-	3.50	3	5	3
5	-	4.33	5	5	3
6	-	3.33	3	5	2
7	-	3.83	4	5	3
8	-	3.83	3	5	3
9	-	4.00	3・4・5	5	3
10	-	4.50	5	5	3
11	-	4.33	5	5	3
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.33	2・4	5	2
14	-	2.33	2	4	1
15	-	4.33	4	5	4
16	-	4.33	4	5	4
17	-	3.83	4	5	3
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	1・3	3	1
20	-	0.00	1・3	3	1
回答者数	-	7			



受講生の傾向

受講生の学習意欲は非常に強い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

問題意識を明確にさせるために、プレゼンテーション中心の対話形式で講義を展開した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後ともプレゼン中心の講義方式を踏襲する。

科 目: 戦略管理会計論

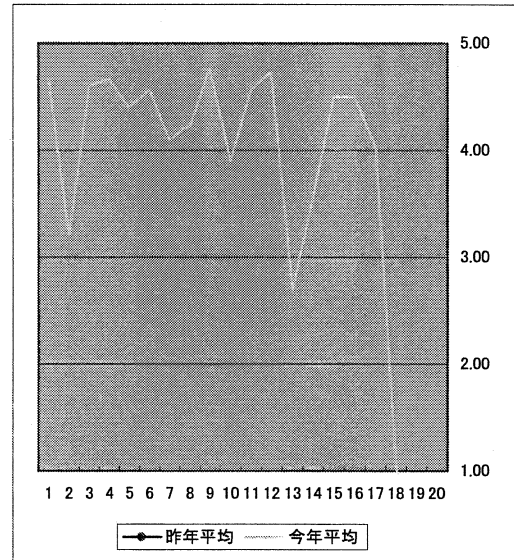
配当年次: 2年次

開講時限: 月3

受講者数: 40

回答者数: 30

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.67	5	5	4
2	-	3.20	3	5	3
3	-	4.60	5	5	4
4	-	4.67	5	5	4
5	-	4.40	5	5	3
6	-	4.57	5	5	4
7	-	4.10	4	5	3
8	-	4.23	4	5	3
9	-	4.77	5	5	4
10	-	3.90	4	5	2
11	-	4.57	5	5	3
12	-	4.73	5	5	3
13	-	2.69	1・3	5	1
14	-	3.57	5	5	1
15	-	4.50	5	5	3
16	-	4.50	5	5	3
17	-	4.03	4	5	2
18	-	1.05	1	2	1
19	-	0.00	1・3	3	1
20	-	0.00	3・4	4	3
回答者数	-	30			



受講生の傾向

管理会計の理論について知識が不足している学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

体系的なテキストを用いて対応する予定である。

また、より詳細な参考書を併用し、授業のプリントやテキストともに、授業内容をリッチにすることを企画している。

テキスト: 加登豊編『インサイト管理会計』中央経済社

参考書: 上埜進『管理会計』税務経理協会

科目: 自治体会計論

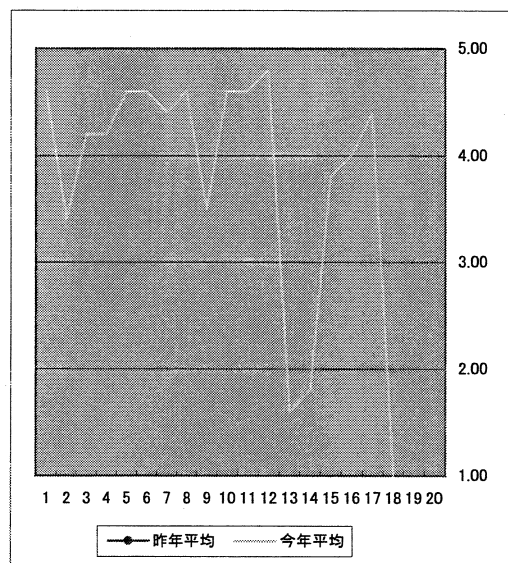
配当年次: 2年次

受講者数: 6

開講時限: 火4

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.60	5	5	4
2	-	3.40	3	5	3
3	-	4.20	4	5	4
4	-	4.20	4・5	5	3
5	-	4.60	5	5	4
6	-	4.60	5	5	4
7	-	4.40	4	5	4
8	-	4.60	5	5	4
9	-	3.50	3	5	3
10	-	4.60	5	5	4
11	-	4.60	5	5	4
12	-	4.80	5	5	4
13	-	1.60	1	3	1
14	-	1.80	2	2	1
15	-	3.80	3・4	4	3
16	-	4.00	4	5	3
17	-	4.40	4	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	5			



受講生の傾向

自治体会計に興味のある受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

分かりやすく興味を持たせるように工夫する。

科 目: インベスター・リレーションズ論

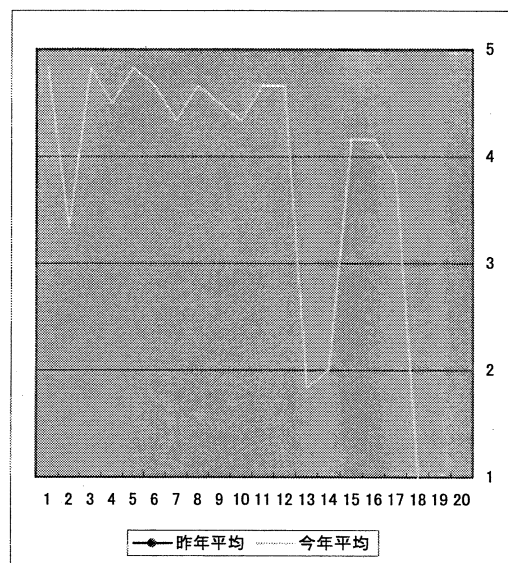
配当年次: 2年次

開講時限: 水3

受講者数: 14

回答者数: 6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.83	5	5	4
2	-	3.33	3	5	3
3	-	4.83	5	5	4
4	-	4.50	4・5	5	4
5	-	4.83	5	5	4
6	-	4.67	5	5	4
7	-	4.33	4	5	4
8	-	4.67	5	5	4
9	-	4.50	4・5	5	4
10	-	4.33	4	5	4
11	-	4.67	5	5	4
12	-	4.67	5	5	4
13	-	1.83	1	2	1
14	-	2.00	1・2・3	3	1
15	-	4.17	4	5	4
16	-	4.17	4	5	4
17	-	3.83	4	4	3
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	6			



受講生の傾向

- 1)出席率は高かった。
- 2)講義に対しても質問はかなり出されていた。
- 3)ケース・スタディによる課題とその解説という形での講義の組立てであったが、整理されたレポートが多く提出された。
- 4)コーポレート・ファイナンスの応用・現実の理解という講義の目的は果たせたと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1)現実の企業の行動・意思決定が理解されるようなケースを選択した。
- 2)各人がケースの課題を提出し、それについて解説・討議をするというスタイルを採用した。
- 3)事前に考えてくることで、各人が積極的に討議に参加するよう工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

昨年度は講義なし。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- 1)ケース・スタディの数(課題の数)をより増加させる。
- 2)ケースの解説において、財務理論の基礎の確認を行えるようにより工夫する。

科 目: マクロ経済学

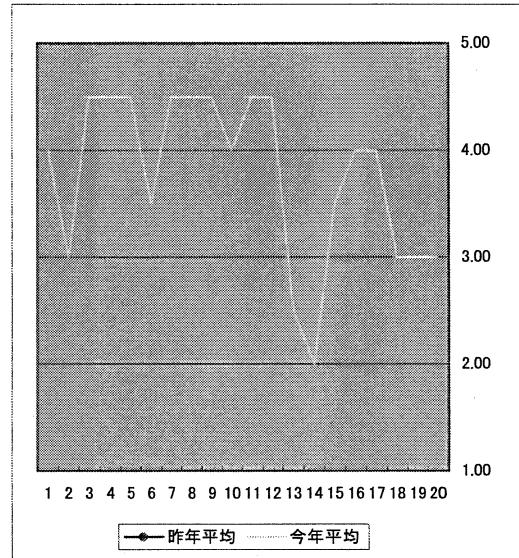
配当年次: 2年次

受講者数: 5

開講時限: 土2

回答者数: 2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	3・5	5	3
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.50	4・5	5	4
4	-	4.50	4・5	5	4
5	-	4.50	4・5	5	4
6	-	3.50	3・4	4	3
7	-	4.50	4・5	5	4
8	-	4.50	4・5	5	4
9	-	4.50	4・5	5	4
10	-	4.00	3・5	5	3
11	-	4.50	4・5	5	4
12	-	4.50	4・5	5	4
13	-	2.50	2・3	3	2
14	-	2.00	1・3	3	1
15	-	3.50	3・4	4	3
16	-	4.00	4	4	4
17	-	4.00	4	4	4
18	-	3.00	1・2	2	1
19	-	3.00	3	3	3
20	-	3.00	3	3	3
回答者数	-	2			



受講生の傾向

ミクロ経済学と同様に経済学の基礎をなす経済理論の柱の一つであるが、ミクロ経済学と比較すると日常マスコミで目にする経済用語が頻繁に講義に出てくるので、院生は親しみを感じるのかミクロ経済学よりは理解は早いと考えている。特に、会計士になってからも日常の世界経済、日本経済の変化をマクロ経済学の理論、知識で分析することになるので、非常に興味をもって受講しているように感じられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計士の受験のためだけではなく、日常の経済の変化を理解するように、経済の事例を付け加えながら講義を進めたいと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科 目: 監査事例研究

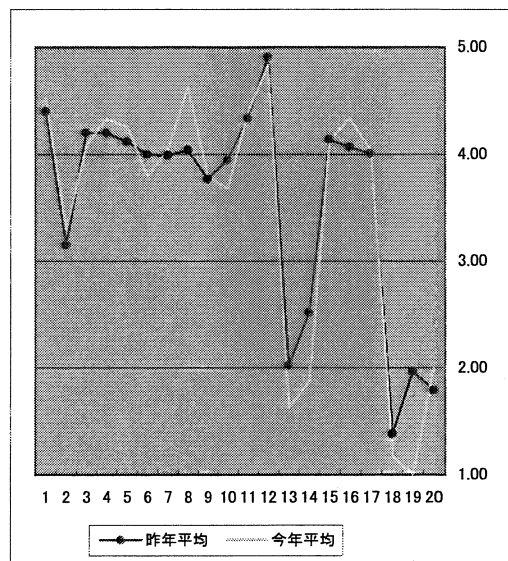
配当年次: 1年次

受講者数: 58

開講時限: 金2

回答者数: 24

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.52	5	5	3
2	3.15	3.29	3	5	3
3	4.20	4.08	4	5	2
4	4.20	4.33	4	5	3
5	4.12	4.26	4	5	2
6	4.00	3.79	3	5	3
7	3.99	4.04	4	5	3
8	4.04	4.63	5	5	3
9	3.77	3.79	3	5	3
10	3.95	3.68	4	5	1
11	4.34	4.39	4	5	3
12	4.91	4.83	5	5	4
13	2.02	1.63	1	4	1
14	2.52	1.88	1	4	1
15	4.14	4.13	4	5	3
16	4.07	4.33	4	5	3
17	4.01	4.04	4	5	2
18	1.38	1.17	1	4	1
19	1.97	1.00	1	1	1
20	1.79	2.00	1・3	3	1
回答者数	53	24			



昨年度は 監査実施論・監査報告論を含む

受講生の傾向

発表は回を重ねるにつれ上達し、資料も工夫して作成されていた。
レポートも各自の考え方を上手くまとめたものが見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

楽しい雰囲気での授業にすること。

グループ発表とすることにより全員が参加できるようにした。

教室を回って理解できていない学生にはヒントを与えるなど、学生の理解度を確認しながら授業を進めた。

新聞に掲載された最近の事例や過去に大きな影響を与えた事例を適宜授業に取り入れた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科 目: 基本会計プログラム演習

配当年次: 1年次

開講時限: 月4

受講者数: 20

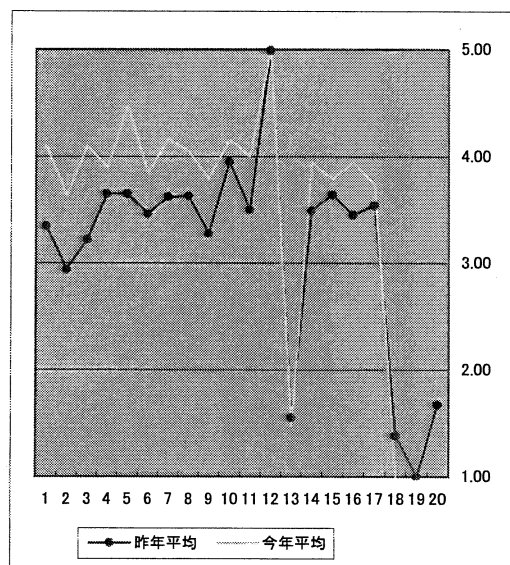
回答者数: 19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.35	4.11	5	5	2
2	2.94	3.63	4	5	3
3	3.22	4.11	4	5	2
4	3.65	3.89	3・4・5	5	2
5	3.65	4.47	4	5	4
6	3.46	3.84	4	5	2
7	3.62	4.16	4	5	3
8	3.63	4.05	5	5	2
9	3.28	3.79	5	5	1
10	3.95	4.16	4	5	1
11	3.50	4.00	5	5	2
12	4.99	5.00	5	5	5
13	1.55	1.47	1	5	1
14	3.49	3.95	5	5	1
15	3.64	3.79	3	5	2
16	3.45	3.95	4	5	3
17	3.54	3.74	4	5	2
18	1.38	1.00	1	1	1
19	1.00	0.00	0	0	0
20	1.67	0.00	0	0	0
回答者数	32	19			

昨年度は基本監査プログラム演習を含む

受講生の傾向

研究科の性質上、当然であるが、コンピュータ(特にプログラミング)に関する知識のない学生がほとんどであった。課題の提出率が非常に高く、課題を完成させることで、講義の目的を達成しようとする学生が多かった。



昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生が、コンピュータの利用やソフトウェアの構造に関する知識がないことを前提に、講義を行った。

講義の進捗状況や予定されている講義の内容と目的を、頻回に説明した。

昨年に引き続き、学生の習熟度や理解度を認識するため、実習中の机間巡回を必ず行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

予習用の教材の用意

公認会計士試験と直接にはつながらないことや

公認会計士業務と本講義の内容との関係を伝え、意義を理解させる努力を講じる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習用の教材が未だできていないため、鋭意、作成に努める。

コンピュータ・システムに関して初学者である学生用の段階的な課題を用意する。

科 目: 実践会計プログラム演習

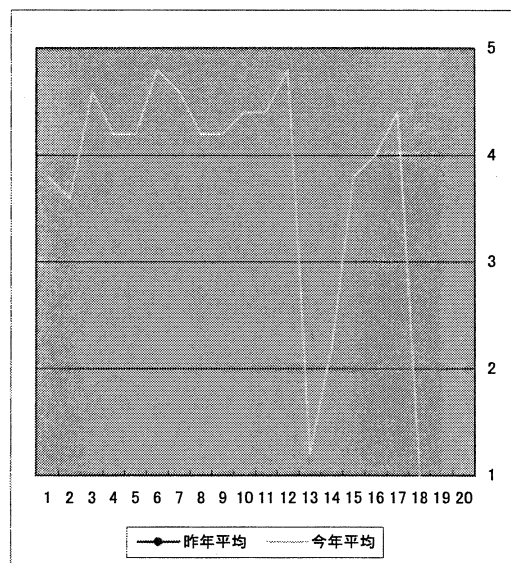
配当年次: 2年次

開講時間: 火2

受講者数: 5

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	3.80	3・4	5	3
2	-	3.60	3	5	3
3	-	4.60	5	5	4
4	-	4.20	4	5	4
5	-	4.20	4・5	5	3
6	-	4.80	5	5	4
7	-	4.60	5	5	4
8	-	4.20	4・5	5	3
9	-	4.20	4	5	4
10	-	4.40	4	5	4
11	-	4.40	4	5	4
12	-	4.80	5	5	4
13	-	1.20	1	2	1
14	-	2.20	1	4	1
15	-	3.80	3・4	5	3
16	-	4.00	4	5	3
17	-	4.40	4	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	5			



受講生の傾向

全員がほぼ100%の出席率であり、本研究科修了後のスキルを考えて受講しているようであった。概ね、熱心に受講しているが、予習・復習の時間が極端に少ない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度から開講された科目であるため、昨年度との比較はできない。

わかりやすい教材の作成につとめ、

講義の性質上、具体的なコンピュータ・ディスプレイのハードコピーを教材に多用し、復習の際に、毎回の講義をトレースできるように作成した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

復習用の課題、より実践的な実習がおこなえるような教材の作成につとめる。

科 目: アカデミック・ソリューション(加藤クラス)

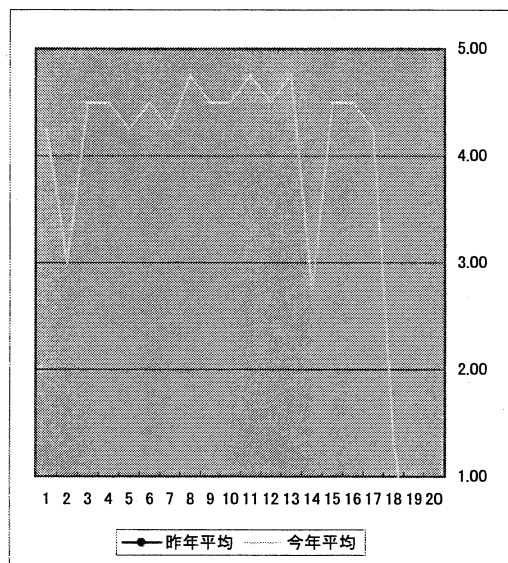
配当年次: 1年次

開講時限: 木5

受講者数: 4

回答者数: 4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.25	5	5	3
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.50	4・5	5	4
4	-	4.50	4・5	5	4
5	-	4.25	5	5	3
6	-	4.50	4・5	5	4
7	-	4.25	4	5	4
8	-	4.75	5	5	4
9	-	4.50	4・5	5	4
10	-	4.50	5	5	3
11	-	4.75	5	5	4
12	-	4.50	4・5	5	4
13	-	4.75	5	5	4
14	-	2.75	2	5	2
15	-	4.50	4・5	5	4
16	-	4.50	4・5	5	4
17	-	4.25	5	5	4
18	-	1.33	1	2	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	4			



受講生の傾向

講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で、遅参者は少なかった。

教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている受講生が多く、私語はほとんどない状態であった。

必ずしも活発なディスカッションが行われたとはいえず、教員の説明を一方向的に受け入れるケースが多かった。

会計基準等の原文にあまり目を通さず、テキストのみで学習しようとする傾向が散見された。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

テキストを指定して、会計基準等の原文を参考にしながら勉強ノートを作成し、それに基づいてプレゼンテーションとディスカッションを行う講義を展開した。

暗記よりも理解させることに力点を置き、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。

会計基準等の原文にできるだけ忠実な説明を心がけ、受講生に原文を見るように促した。

論述の構成や文章表現はマン・ツー・マンで指導し、受講生の個性を尊重しながら個々の理解を促すようにした。

場合によっては個々に特別な課題を与えるなど、個々の理解度と学習の進捗度に合わせる形で講義を進めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計基準等の原文を常に参照するように指導していく。

質疑応答の機会を増やし、活発なディスカッションが行われるようにしていく。

科 目: アカデミック・ソリューション(坂口クラス)

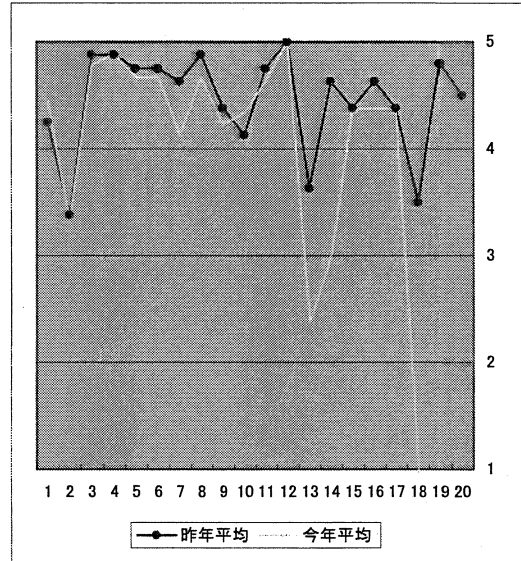
配当年次: 1年次

開講時限: 月5

受講者数: 10

回答者数: 9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.44	4	5	4
2	3.38	3.33	3	4	3
3	4.88	4.78	5	5	4
4	4.88	4.89	5	5	4
5	4.75	4.67	5	5	4
6	4.75	4.67	5	5	4
7	4.63	4.13	4・5	5	3
8	4.88	4.67	5	5	4
9	4.38	4.22	4	5	3
10	4.13	4.33	4	5	4
11	4.75	4.63	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.63	2.38	3	4	1
14	4.63	3.00	3	4	2
15	4.38	4.38	4	5	4
16	4.63	4.38	5	5	4
17	4.38	4.38	5	5	4
18	3.50	1.00	1	1	1
19	4.80	0.00	0	0	0
20	4.50	0.00	0	0	0
回答者数	8	9			



受講生の傾向

おおむね熱心な学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生の興味のある項目にポイントを絞り実施した。
おもに計算技法や理論の動向について検討した。

今後の対応

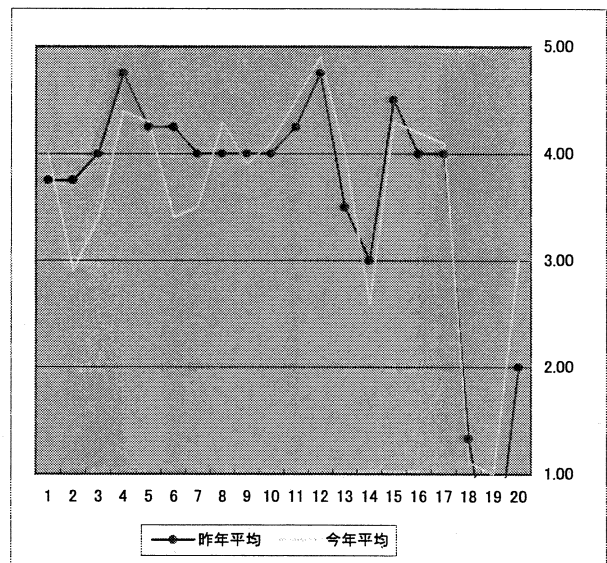
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

計算の解説について手法特性に依存せず解答の大まかな方向について説明を実施することを企画している。

科 目: アカデミック・ソリューション(柴クラス)
 配当年次: 1年次 開講時限: 月5
 受講者数: 12 回答者数: 11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.75	4.00	4	5	2
2	3.75	2.90	3	3	2
3	4.00	3.40	4	4	2
4	4.75	4.40	4	5	4
5	4.25	4.30	4	5	3
6	4.25	3.40	4	4	2
7	4.00	3.50	3	5	3
8	4.00	4.30	4	5	3
9	4.00	3.90	4	5	3
10	4.00	4.10	4	5	4
11	4.25	4.50	4・5	5	4
12	4.75	4.90	5	5	4
13	3.50	4.00	5	5	1
14	3.00	2.60	3	4	1
15	4.50	4.30	4	5	3
16	4.00	4.20	4	5	2
17	4.00	4.10	4	5	3
18	1.33	1.11	1	2	1
19	0.00	1.00	1	1	1
20	2.00	3.00	3	3	3
回答者数	4	11			



受講生の傾向

○アカデミック・ソリューション:

前年度比較でいうと、教員評価に係る項目(1から11と15から17)に関して、7項目が高まり、残りは下がったが、全体としてみる変化は軽微であった。

ただし、項目2(進度)が大きく改善した反面、項目6(教材利用)が適切との評価の度合いが下がった。悪いという評価ではないが一考を要する。

学生自身の評価(項目12から14)を見ると、非常に出席率が高く、予習復習にそこそこの時間をかけているという傾向に変化はなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

個性を重視し、得意な領域から考える力を育てようと工夫した。

昨年同様に、徹底的に質問した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

個性を生かした動機付けという対応については効果があったと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後もこの方式を継続する。

科 目: アカデミック・ソリューション(清水クラス)

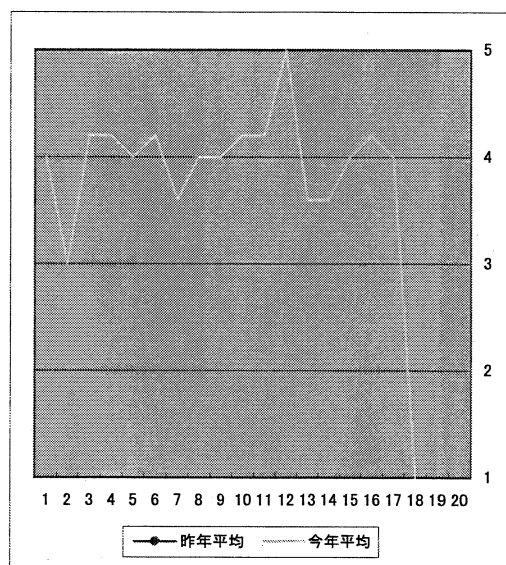
配当年次: 1年次

開講時限: 木5

受講者数: 9

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	4	5	3
2	-	3.00	3	4	2
3	-	4.20	4	5	4
4	-	4.20	4	5	4
5	-	4.00	4	5	3
6	-	4.20	4	5	4
7	-	3.60	3	5	3
8	-	4.00	4	5	3
9	-	4.00	4	5	3
10	-	4.20	4	5	4
11	-	4.20	4	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.60	3	5	3
14	-	3.60	3	5	3
15	-	4.00	4	4	4
16	-	4.20	4	5	4
17	-	4.00	4	4	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	5			



受講生の傾向

公会計に関するテーマを取り扱ったが、発表内容、ディスカッションとも熱心、活発とは言えなかった。最初に問題の所在を説明したが、テーマが難解であったと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は実施していない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

1年次はテーマを企業会計に絞ることとする。

科 目: アカデミック・ソリューション(富田クラス)

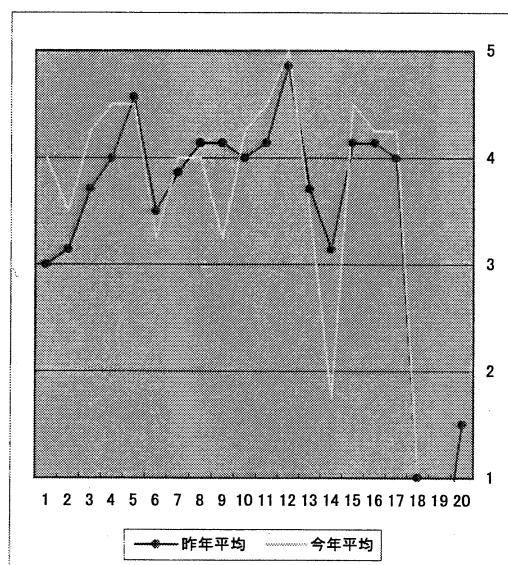
配当年次: 1年次

開講時限: 火5

受講者数: 5

回答者数: 4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.00	4.00	4	4	4
2	3.14	3.50	3	5	3
3	3.71	4.25	4	5	4
4	4.00	4.50	4・5	5	4
5	4.57	4.50	4・5	5	4
6	3.50	3.25	3	4	3
7	3.86	4.00	4	4	4
8	4.14	4.00	4	5	3
9	4.14	3.25	3	4	3
10	4.00	4.25	4	5	4
11	4.14	4.50	4・5	5	4
12	4.86	5.00	5	5	5
13	3.71	3.50	3	5	3
14	3.14	1.75	2	2	1
15	4.14	4.50	4・5	5	4
16	4.14	4.25	4	5	4
17	4.00	4.25	4	5	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	1.50	0.00	0	0	0
回答者数	7	4			



受講生の傾向

全員が、ほぼ100%の出席率であった。

事前の課題あるいは予習を行ってくるものの、

その予習に集中してしまい、復習が少ない(ほとんどしない)学生が多かったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は昨年度と異なる授業計画をたて、受講生により適切な授業計画となるよう努めた。

学生の理解が、表層的にならないように、また、積極的な学生と消極的な学生との差が生じないように、

毎回のテーマを明確にし、まんべんなく学生たちとのディスカッションを行った。

前半は、会計の基礎的な部分の理解に努め、後半は応用的な内容とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

学生の水準と授業計画で予定した水準とにギャップがあり、適切な授業計画を構築する。

プレゼンテーションやディスカッションのための教材作成につとめる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、ディスカッションのための教材作成につとめる。

復習が不十分のようであるため、復習用の教材の作成や課題の設定に努める。

科 目: アカデミック・ソリューション(松尾クラス)

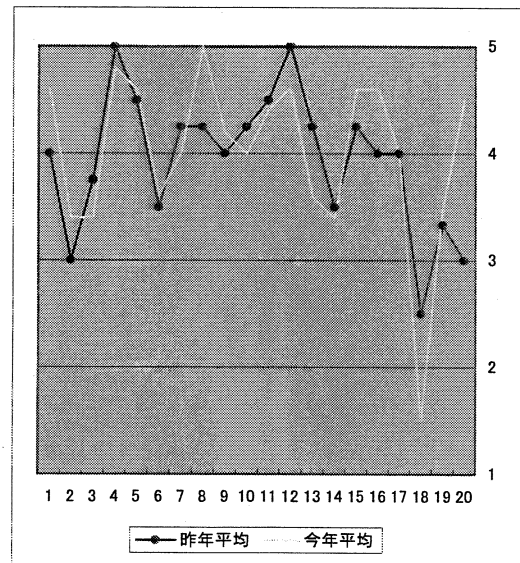
配当年次: 1年次

開講時限: 木5

受講者数: 5

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.60	5	5	4
2	3.00	3.40	3	4	3
3	3.75	3.40	4	4	2
4	5.00	4.80	5	5	4
5	4.50	4.60	5	5	4
6	3.50	3.60	4	4	2
7	4.25	4.00	4	5	3
8	4.25	5.00	5	5	5
9	4.00	4.20	4	5	4
10	4.25	4.00	4	4	4
11	4.50	4.40	4	5	4
12	5.00	4.60	5	5	3
13	4.25	3.60	3	5	3
14	3.50	3.40	3	5	3
15	4.25	4.60	5	5	4
16	4.00	4.60	5	5	4
17	4.00	4.00	4	4	4
18	2.50	1.50	1・2	2	1
19	3.33	3.50	3・4	4	3
20	3.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	4	5			



受講生の傾向

アカデミック・ソリューションは受講生の問題意識に差がある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

アカデミック・ソリューションはCPA試験財務会計論出題範囲を完全にカバーするように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の方式を踏襲する。

科 目: アカデミック・ソリューション(三島クラス)

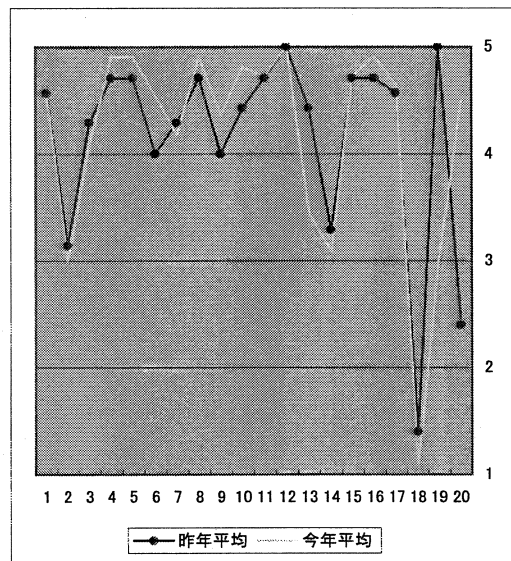
配当年次: 1年次

開講時限: 木5

受講者数: 12

回答者数: 11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.57	4.55	5	5	2
2	3.14	3.00	3	4	2
3	4.29	4.09	4	5	2
4	4.71	4.91	5	5	4
5	4.71	4.91	5	5	4
6	4.00	4.55	5	5	3
7	4.29	4.18	5	5	3
8	4.71	4.91	5	5	4
9	4.00	4.36	5	5	3
10	4.43	4.82	5	5	4
11	4.71	4.73	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.43	3.45	3	5	2
14	3.29	3.09	3	5	1
15	4.71	4.73	5	5	3
16	4.71	4.91	5	5	4
17	4.57	4.64	5	5	4
18	1.40	1.10	1	2	1
19	5.00	3.00	3	3	3
20	2.40	4.50	4・5	5	4
回答者数	7	11			



受講生の傾向

授業の予習はよくできているが、それをあまり授業時に積極的に発言するということがあまりない。
 質問については、他の学生がいる前で言うというよりも、授業が終わってから個別になされることが多い。
 質問によっては、他の学生の学習にもなるので、授業時におこなわれる音が望ましい。
 勉学には熱心で、夏と春の授業がない期間にも授業の要望があり、補講を行った。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は成績別でソリューションの専攻が行われたため、学生の学力に大きな差は見られなかったため、ある程度は受講生全員のレベルに合わせた授業をおこなった。
 春学期には基礎力を要請するような授業をおこない、秋学期には応用力を養う授業をおこなった。
 単に知識ではなく、思考をすることによって解決が導き出すことができるような教材を作成し利用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

ゼミ内で学力の差がある場合にそれに応じて対応した学習ができるようにしたい。
 教員主導ではなく学生主導のゼミを作りたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生主導の授業をより進めていきたい。
 学生の思考および応用力を養うような教材を作成し利用したい。

科 目: アカデミック・ソリューション(宮本クラス)

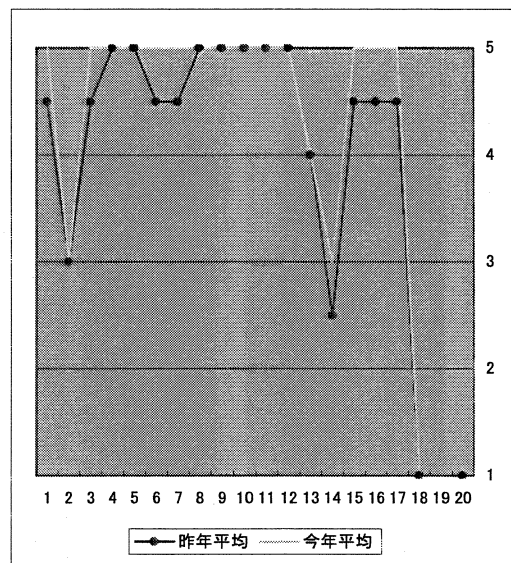
配当年次: 1年次

開講時限: 土1

受講者数: 2

回答者数: 1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.50	5.00	5	5	5
7	4.50	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	4.00	4	4	4
14	2.50	3.00	3	3	3
15	4.50	5.00	5	5	5
16	4.50	5.00	5	5	5
17	4.50	5.00	5	5	5
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	1.00	0.00	0	0	0
回答者数	2	1			



受講生の傾向

受講生は全員基本的に経済学に関心があり、これまで経済学の基礎をきちんと学習した院生が受講している。また、正規の受講生以外に聴講生も多く、聴講生もすべて経済学の基礎学力を身につけている。受講生は公認会計士のみならず、それと平行に公務員や国税専門官の試験も受験する希望を持っている。非常に真面目な院生ばかりである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生は聴講生も含めて全員がすべて、経済学の基礎的な学力をしっかりと身につけているので、高度な内容や応用力に関する学習を中心に講義を行った。具体的には、ミクロ経済学のやや高度な内容を図や簡単な式を用いて分析・学習した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

学部時代に経済学の基礎的知識を習得した院生と、経済学部以外から進学してきた院生とが混在する場合には、初期の段階ではやや修得した学力に差があるので、今後は修得した学力に少し相違がある院生が居る時には、はじめは出来るかぎり初心者にも理解できるような内容で講義を行う計画である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科 目: アカデミック・ソリューション(宗岡クラス)

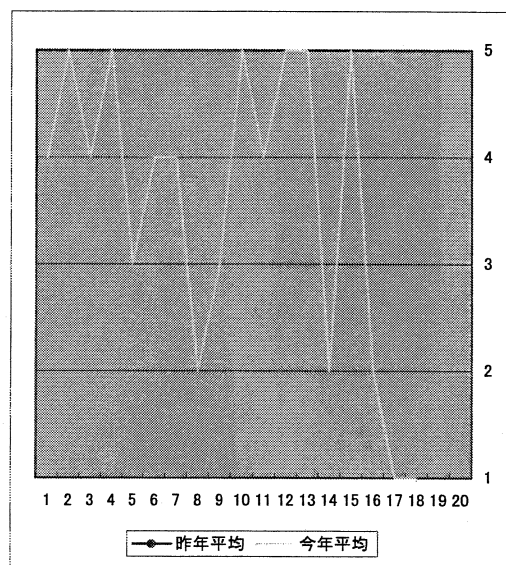
配当年次: 1年次

開講時限: 金1

受講者数: 10

回答者数: 1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	4	4	4
2	-	5.00	5	5	5
3	-	4.00	4	4	4
4	-	5.00	5	5	5
5	-	3.00	3	3	3
6	-	4.00	4	4	4
7	-	4.00	4	4	4
8	-	2.00	2	2	2
9	-	3.00	3	3	3
10	-	5.00	5	5	5
11	-	4.00	4	4	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	5.00	5	5	5
14	-	2.00	2	2	2
15	-	5.00	5	5	5
16	-	2.00	2	2	2
17	-	1.00	1	1	1
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	1			



受講生の傾向

非常に熱心に課題(実在上場企業の企業分析: ビズネット株式会社、小林製薬株式会社)に取り組んで、レポート作成という大きな成果を挙げることができた。そして、対象企業をどのように分析するかという、実践的な力も身につけることができた。ただし、何でも聞こうとする傾向があり、自分で調べるように指示した。その点が、質問8の2評価につながっているのではないと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上級生とのコミュニケーションを重視し、ディスカッションによる解決を行うように指導した。
具体的には、チームごとに疑問点の提示とその解決というプロセスをディスカッションにより行うようにさまざまな局面で指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

与えられた内容をこなすことが「学習」であり、わからないことがあれば先生に聞けばよいという風潮があるように思われる。自分で考え工夫するという指導を今後も続けて行きたいが、それを不親切ととられないような工夫をしたい。

科 目: プロフェッショナル・ソリューション(坂口クラス)

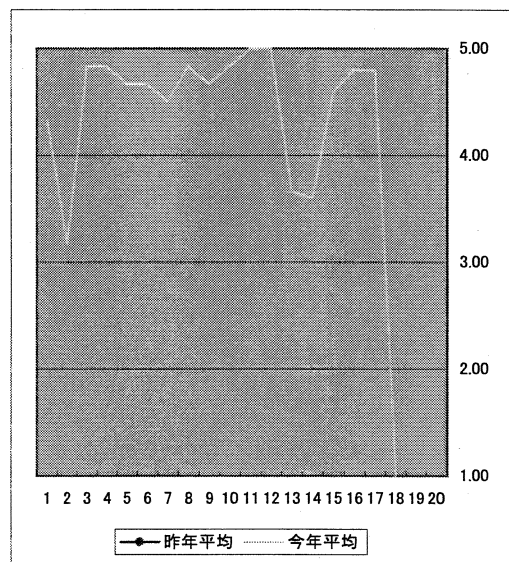
配当年次: 2年次

開講時限: 金5

受講者数: 8

回答者数: 6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.33	4	5	4
2	-	3.17	3	4	3
3	-	4.83	5	5	4
4	-	4.83	5	5	4
5	-	4.67	5	5	4
6	-	4.67	5	5	3
7	-	4.50	4・5	5	4
8	-	4.83	5	5	4
9	-	4.67	5	5	4
10	-	4.83	5	5	4
11	-	5.00	5	5	5
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.67	2・4・5	5	2
14	-	3.60	4	5	2
15	-	4.60	5	5	3
16	-	4.80	5	5	4
17	-	4.80	5	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	6			



受講生の傾向

おおむね熱心な学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

具体的なケースを基礎にして検討を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生ニーズに応じたサービスの提供を今後も続けていく予定である。

科 目: プロフェッショナル・ソリューション(柴クラス)

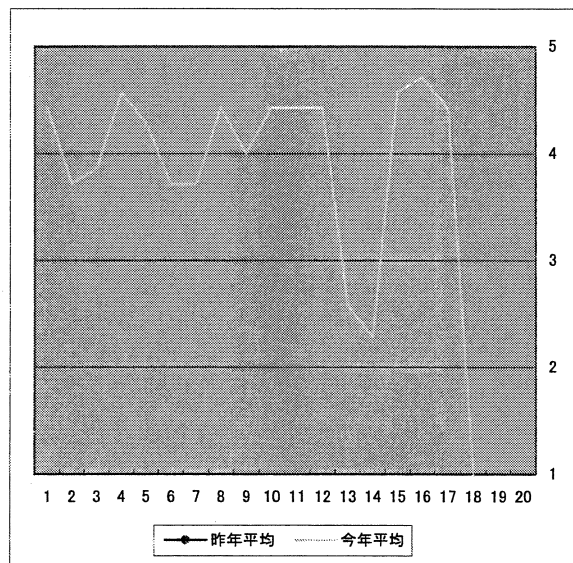
配当年次: 2年次

開講時限: 金5

受講者数: 7

回答者数: 7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.43	4	5	4
2	-	3.71	3	5	3
3	-	3.86	4	5	3
4	-	4.57	5	5	4
5	-	4.29	4・5	5	3
6	-	3.71	4	5	2
7	-	3.71	3・4	5	3
8	-	4.43	4	5	4
9	-	4.00	4	5	3
10	-	4.43	4	5	4
11	-	4.43	4	5	4
12	-	4.43	4	5	4
13	-	2.57	3	3	2
14	-	2.29	2・3	3	1
15	-	4.57	5	5	4
16	-	4.71	5	5	4
17	-	4.43	4	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数		7			



受講生の傾向

受講生の傾向

○プロフェッショナル・ソリューション:

アカデミック・ソリューション(今年度)との対比で見ると、総じて、評価が高い。同昨年度との対比で見ると、総じて、評価が低い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

個性を重視し、得意な領域から考える力を育てようと工夫した。

昨年同様に、徹底的に質問した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

個性を生かした動機付けという対応については効果があったと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後もこの方式を継続する。

科 目: プロフェッショナル・ソリューション(清水クラス)

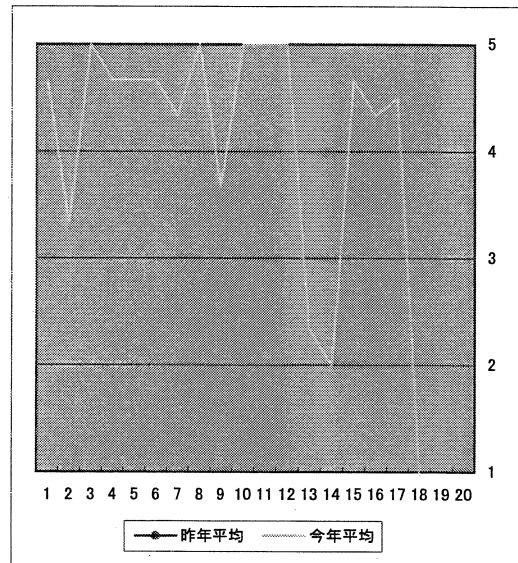
配当年次: 2年次

開講時限: 金5

受講者数: 4

回答者数: 3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.67	5	5	4
2	-	3.33	3	4	3
3	-	5.00	5	5	5
4	-	4.67	5	5	4
5	-	4.67	5	5	4
6	-	4.67	5	5	4
7	-	4.33	4	5	4
8	-	5.00	5	5	5
9	-	3.67	4	4	3
10	-	5.00	5	5	5
11	-	5.00	5	5	5
12	-	5.00	5	5	5
13	-	2.33	1・2・4	4	1
14	-	2.00	1・2・3	3	1
15	-	4.67	5	5	4
16	-	4.33	4	5	4
17	-	4.50	4・5	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	3			



受講生の傾向

テーマに前向き、活発なディスカッションと考察が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は実施していない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続きこの形式で実施する。

科目: プロフェッショナル・ソリューション(松尾クラス)

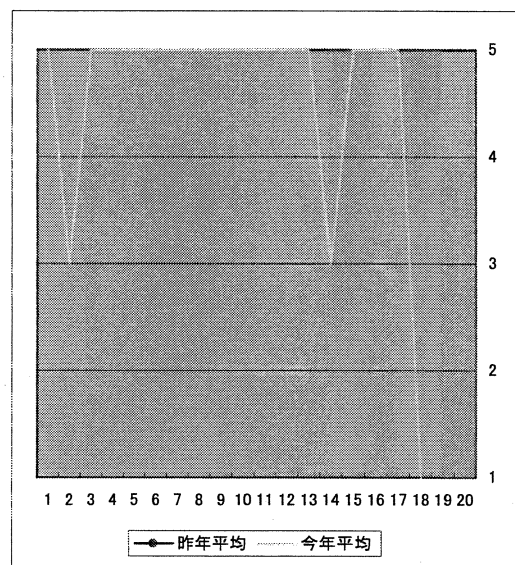
配当年次: 2年次

開講時限: 月5

受講者数: 1

回答者数: 1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	5.00	5	5	5
2	-	3.00	3	3	3
3	-	5.00	5	5	5
4	-	5.00	5	5	5
5	-	5.00	5	5	5
6	-	5.00	5	5	5
7	-	5.00	5	5	5
8	-	5.00	5	5	5
9	-	5.00	5	5	5
10	-	5.00	5	5	5
11	-	5.00	5	5	5
12	-	5.00	5	5	5
13	-	5.00	5	5	5
14	-	3.00	3	3	3
15	-	5.00	5	5	5
16	-	5.00	5	5	5
17	-	5.00	5	5	5
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	1			



受講生の傾向

プロフェッショナル・ソリューション受講生の問題意識は非常に明解である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

プロフェッショナル・ソリューションは、財務会計論過去問分析を徹底した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度的方式を踏襲する。

科 目: プロフェッショナル・ソリューション(三島クラス)

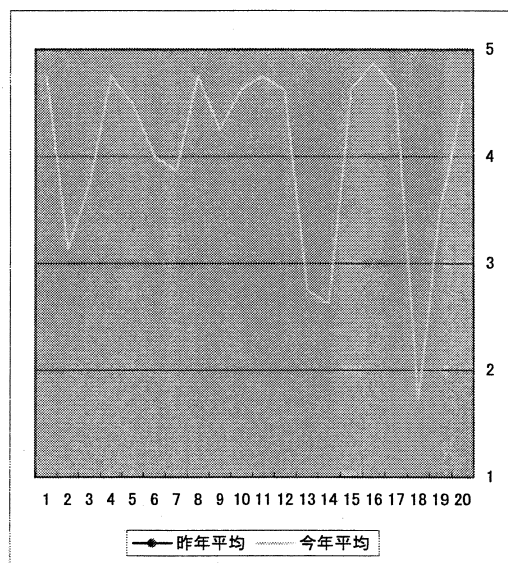
配当年次: 2年次

開講時限: 月5

受講者数: 8

回答者数: 8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	0.00	5	5	4
2	-	0.00	3	4	3
3	-	0.00	3	5	3
4	-	0.00	5	5	4
5	-	0.00	5	5	3
6	-	0.00	3・5	5	3
7	-	0.00	4	5	3
8	-	0.00	5	5	3
9	-	0.00	5	5	3
10	-	0.00	5	5	3
11	-	0.00	5	5	4
12	-	0.00	5	5	4
13	-	0.00	3	3	2
14	-	0.00	3	3	2
15	-	0.00	5	5	3
16	-	0.00	5	5	4
17	-	0.00	5	5	4
18	-	0.00	1	5	1
19	-	0.00	3・4	4	3
20	-	0.00	4・5	5	4
回答者数	-	8			



受講生の傾向

アカデミックソリューションのときよりも学習意欲が増している。

より高度な内容の学習をすることを希望する学生が多い。

それにもかかわらず、注意深く思慮するところには欠けているところがみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業法に関しては基礎的な学力があることを前提に授業をおこなった。

学生が積極的に興味のある題材(たとえば最新の判例)を用意して、学生による討論が行われるようにした。

基本的に授業の進行を学生にゆだねた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

ゼミ内で学力の差がある場合にそれに応じて対応した学習ができるようにしたい。

教員主導ではなく学生主導のゼミを作りたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

詳細な議論をする上で注意深い配慮ができるように指導したい。

学生の希望にもあると思われるので、企業法の最新の動向(判例等)を取り入れて授業をおこないたい。

科 目: 倒産分析論

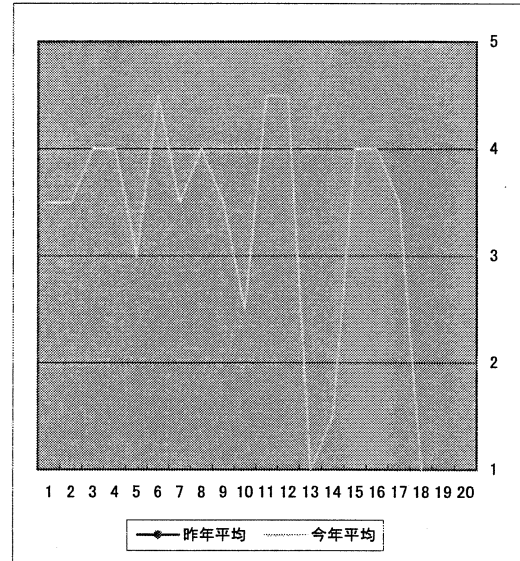
配当年次: 2年次

開講時限: 火4

受講者数: 2

回答者数: 2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	3.50	3・4	4	3
2	-	3.50	3・4	4	3
3	-	4.00	4	4	4
4	-	4.00	4	4	4
5	-	3.00	2・4	4	2
6	-	4.50	4・5	5	4
7	-	3.50	3・4	4	3
8	-	4.00	4	4	4
9	-	3.50	3・4	4	3
10	-	2.50	2・3	3	2
11	-	4.50	4・5	5	4
12	-	4.50	4・5	5	4
13	-	1.00	1	1	1
14	-	1.50	1・2	2	1
15	-	4.00	4	4	4
16	-	4.00	4	4	4
17	-	3.50	3・4	4	3
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	2			



受講生の傾向

受講人数が少なかったせいか、熱心ではあるが幾分受動的な受講生であった。
コンピュータによるデータ分析に関して不慣れな受講生であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
実際の倒産企業のデータを学生に与え

倒産予測モデルの予測精度の実証とそのプレゼンテーションを毎回の課題とし、
それによって、倒産分析の手法の理解を深めるよう努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

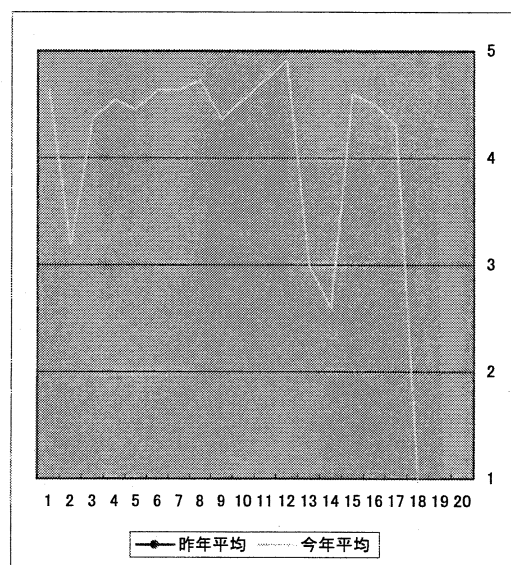
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

定量情報による分析にウェイトが高いため、コンピュータによるデータ分析方法の説明を追加する。
定性情報による分析も加えることで、学生の理解が深まるよう努める。

科 目: サプライチェーン・マネジメント論
 配当年次: 2年次 開講時限: 火3
 受講者数: 11 回答者数: 11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.64	5	5	4
2	-	3.18	3	4	3
3	-	4.36	4	5	4
4	-	4.55	5	5	4
5	-	4.45	4	5	4
6	-	4.64	5	5	4
7	-	4.64	5	5	4
8	-	4.73	5	5	4
9	-	4.36	4・5	5	3
10	-	4.55	5	5	4
11	-	4.73	5	5	4
12	-	4.91	5	5	4
13	-	3.00	3	5	1
14	-	2.60	2・3	5	1
15	-	4.60	5	5	4
16	-	4.50	5	5	3
17	-	4.30	4	5	3
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	11			



受講生の傾向

おおむね積極的な学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

より最新の研究動向を反映させる予定である。

SCMと管理会計についてはヨーロッパでホット・トピックであるので次の雑誌を今後も参考にする。

雑誌: Accounting, Organizations and Society

雑誌: Management Accounting Research

雑誌: Management Science

その他ワーキング・ペーパーも検討中である。

科 目: 起業論

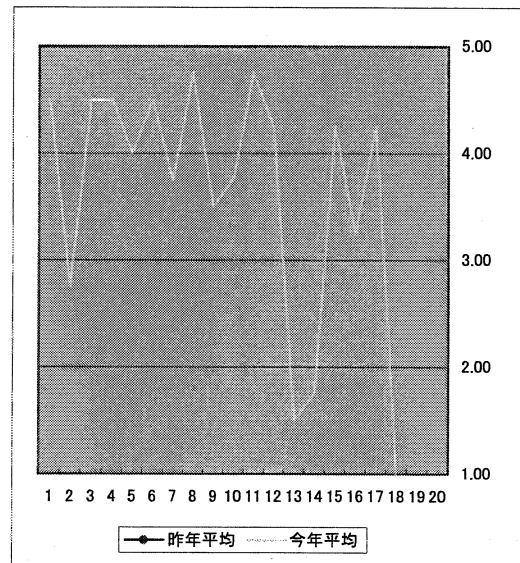
配当年次: 2年次

受講者数: 7

開講時限: 土1

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.50	4・5	5	4
2	-	2.75	2	4	2
3	-	4.50	4・5	5	4
4	-	4.50	4・5	5	4
5	-	4.00	5	5	2
6	-	4.50	4・5	5	4
7	-	3.75	4	4	3
8	-	4.75	5	5	4
9	-	3.50	3	5	3
10	-	3.75	5	5	1
11	-	4.75	5	5	4
12	-	4.25	4	5	4
13	-	1.50	1・2	2	1
14	-	1.75	2	2	1
15	-	4.25	4	5	4
16	-	3.25	4	4	2
17	-	4.25	4	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	5			



受講生の傾向

まじめに授業に取り組む姿勢が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度開講されておらず。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

前年度開講されておらず。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

参加型の授業の要素をもう少し取り入れる。

科 目: 組織再編論

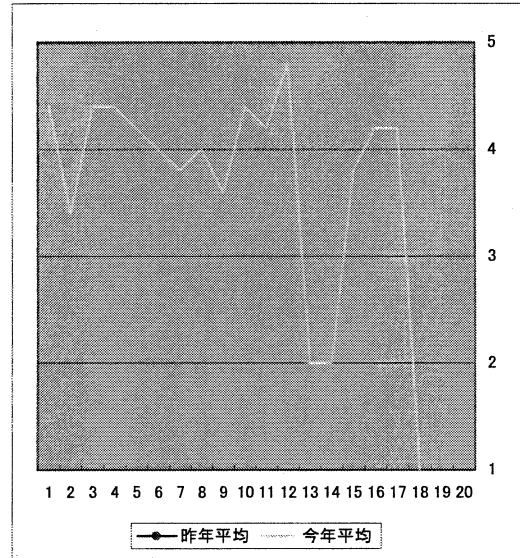
配当年次: 2年次

受講者数: 10

開講時限: 土3

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.40	4	5	4
2	-	3.40	3	4	3
3	-	4.40	4	5	4
4	-	4.40	4	5	4
5	-	4.20	4・5	5	3
6	-	4.00	4	5	3
7	-	3.80	4	4	3
8	-	4.00	4	5	3
9	-	3.60	3	5	3
10	-	4.40	4	5	4
11	-	4.20	4	5	4
12	-	4.80	5	5	4
13	-	2.00	1	4	1
14	-	2.00	2	3	1
15	-	3.80	3・4	5	3
16	-	4.20	4・5	5	3
17	-	4.20	4・5	5	3
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	5			



受講生の傾向

組織再編の実態について知る学生が少なかったため、現実の企業で起きていることの現実感が持ち難いようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度開講されておらず。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

前年度開講されておらず。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

事例についてはもっとわかり易い提示を心がける必要があると思われる。

科目: 年金財政論

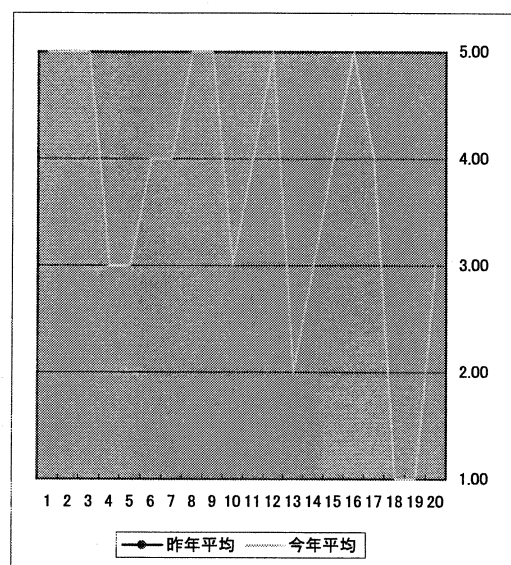
配当年次: 2年次

受講者数: 15

開講時限: 火3

回答者数: 1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	5.00	5	5	5
2	-	5.00	5	5	5
3	-	5.00	5	5	5
4	-	3.00	3	3	3
5	-	3.00	3	3	3
6	-	4.00	4	4	4
7	-	4.00	4	4	4
8	-	5.00	5	5	5
9	-	5.00	5	5	5
10	-	3.00	3	3	3
11	-	4.00	4	4	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	2.00	2	2	2
14	-	3.00	3	3	3
15	-	4.00	4	4	4
16	-	5.00	5	5	5
17	-	4.00	4	4	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	1.00	1	1	1
20	-	3.00	3	3	3
回答者数	-	1			



受講生の傾向

非常に熱心に課題に取り組む学生が多かった。

年金制度のみならず、PBO計算という会計上重要ではあるが、特殊な計算のやり方を講義した。

表計算ソフトを駆使した計算を行う必要があり、多くの脱落者が出るのではないかと心配したが、脱落者はほとんど出なかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度がはじめての授業であり、昨年度の授業評価アンケートはない

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

担当する範囲が広いため、その全部を授業することを意識すると、授業速度がかなり速いものとなった。

むしろ、ポイントを押さえた授業をすることにより、応用力を身につけさせるようにすることが重要と思われる。

年金制度を踏まえ、PBO計算という特殊な計算が必要であることを理解させるとともに、計算の意味を考えさせるようにする。

科目: 国際財務戦略論

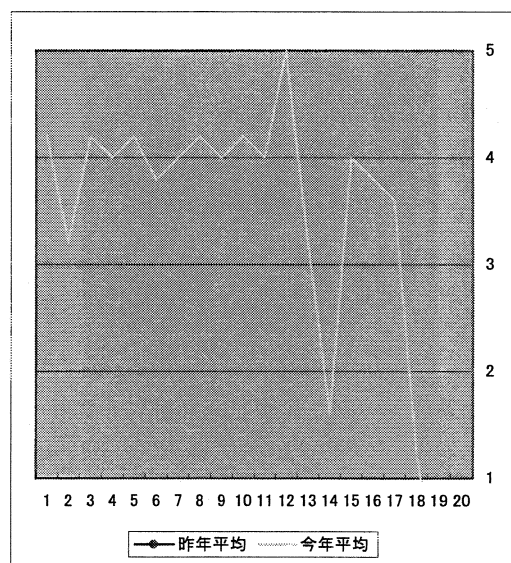
配当年次: 2年次

受講者数: 17

開講時限: 火2

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.20	4・5	5	3
2	-	3.20	3	4	3
3	-	4.20	4・5	5	3
4	-	4.00	4・5	5	2
5	-	4.20	5	5	2
6	-	3.80	2・3・4	5	2
7	-	4.00	4・5	5	2
8	-	4.20	4・5	5	3
9	-	4.00	4・5	5	2
10	-	4.20	5	5	3
11	-	4.00	4・5	5	2
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.20	5	5	1
14	-	1.60	2	2	1
15	-	4.00	4・5	5	2
16	-	3.80	4	5	2
17	-	3.60	4	5	2
18	-	1.20	1	2	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	5			



受講生の傾向

国際的な財務戦略について勉強したいという意欲の高い学生が多かった。
ただし、授業中は熱心であるが、課題や発表については、熱心に取り組む学生とやらない学生の差が大きかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

2年次配当科目であり、今回がはじめての授業である。そのため、昨年度の授業評価アンケートはない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

担当する範囲が広いため、かなり授業の速度が速かった。
発表について、熱心にする学生とそうでない学生の差が大きかったので、指示を具体的にしてその差を小さくするようにする。
授業中にさまざまな具体例を示しつつ授業することで、より身近な問題として理解させるようにする。

科 目：公共経済学

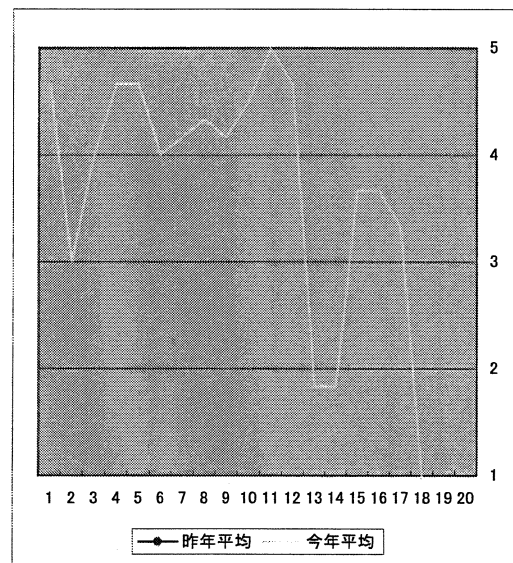
配当年次：2年次

受講者数： 9

開講時限：水3

回答者数： 6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.67	5	5	4
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.00	5	5	3
4	-	4.67	5	5	4
5	-	4.67	5	5	4
6	-	4.00	3・4・5	5	3
7	-	4.17	4	5	3
8	-	4.33	5	5	3
9	-	4.17	4	5	3
10	-	4.50	4・5	5	4
11	-	5.00	5	5	5
12	-	4.67	5	5	4
13	-	1.83	2	3	1
14	-	1.83	2	3	1
15	-	3.67	4	5	2
16	-	3.67	3・5	5	2
17	-	3.33	3	4	3
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	6			



受講生の傾向

本講義の受講生には、公認会計士試験の受験を希望する院生はもちろんのこと、講義の特徴から公認会計士と同時に公務員や国税専門官の受験を希望する学生も大勢受講している。

受講する院生はすべて非常に真面目で勉強熱心である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講する院生はすべて授業に関する関心は高く、また熱心であり、また公認会計士のみならず公務員や国税専門官の受験を希望している院生が受講しているので、受講生の興味を深めるような講義を行っている。具体的には、国や自治体の財政、租税や補助金の効果などについて図を用いて分かりやすく講義している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

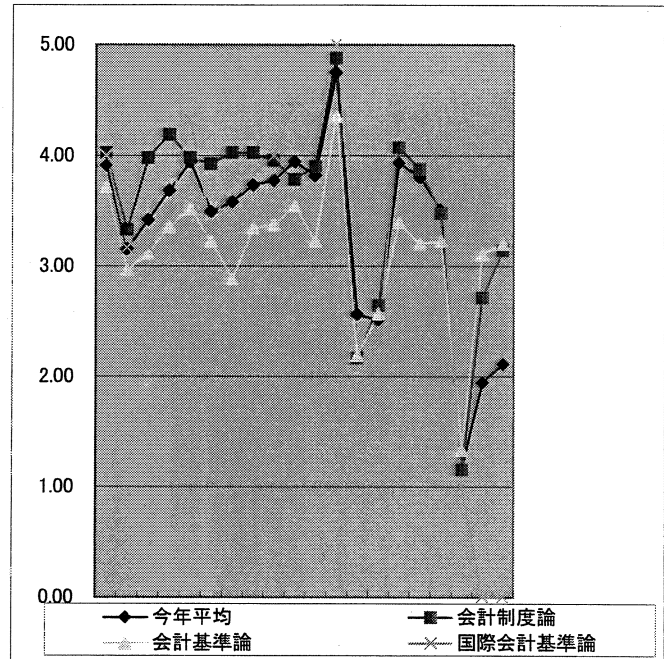
受講生の関心を深めるように、消費税や所得税などの種々の税制の効果やその課税の効果について図などを用いて分かりやすく時間をかけて解説する。さらに、補助金についてもその効果について説明を行う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

系：財務会計
受講者数：157

回答者数：105

質問No.	今年平均	会計制度論	会計基準論	国際会計基準論
1	3.91	4.02	3.72	4.00
2	3.15	3.33	2.96	3.17
3	3.42	3.98	3.11	3.17
4	3.68	4.19	3.36	3.50
5	3.94	3.98	3.52	4.33
6	3.49	3.93	3.23	3.33
7	3.58	4.02	2.89	3.83
8	3.73	4.02	3.35	3.83
9	3.78	3.95	3.38	4.00
10	3.94	3.79	3.55	4.50
11	3.82	3.90	3.23	4.33
12	4.75	4.88	4.36	5.00
13	2.56	2.17	2.19	3.33
14	2.51	2.64	2.57	2.33
15	3.93	4.07	3.40	4.33
16	3.81	3.88	3.21	4.33
17	3.51	3.48	3.23	3.83
18	1.16	1.15	1.33	1.00
19	1.94	2.71	3.11	0.00
20	2.11	3.14	3.20	0.00
回答者数	105	44	54	7



受講生の傾向

科目別の特徴を見ると、教員評価に係る項目（質問1から11と15から17）に関して、会計基準論に対する低評価が目立つ。国際会計基準論については履修者・回答数が少ないので単純に比較できない。担当者が同じなのに国際会計基準論が会計基準論より評価が高いのはおそらく熱心な学生のみ履修していると考えられる。逆にいうと人数が多くなると評価が下がる理由を探す必要がある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計制度論では原典にあたること、考え抜くことを徹底させた。

会計基準論では開講時限を午前に変更した。

国際会計基準論ではブリゼン方式・討論を徹底させた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

会計基準論については、午前中に開講し集中力を高めるとしていたが、この対応にもかかわらず効果が表れなかった。

会計制度論については、授業の進度を落として理解力を高めるとしていたが、進度は余り改善されなかったが理解力は高まったと評価されている。

国際会計基準論については、今年度が開学以来最初の講義であった。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計制度論では考え方のコツを教える工夫をする。

会計基準論は担当者が交代する（松尾⇒柴）。

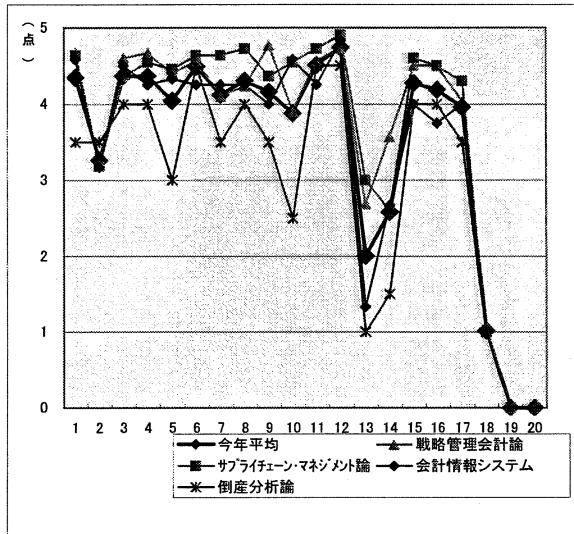
国際会計基準論ではブリゼン方式による講義を継続する。

系： 管理会計

受講者数 66

回答者数:55

質問No.	今年平均	戦略管理会計論	サプライチェーン・マネジメント論	会計情報システム	倒産分析論
1	4.35	4.67	4.64	4.58	3.50
2	3.26	3.20	3.18	3.17	3.50
3	4.37	4.60	4.36	4.50	4.00
4	4.37	4.67	4.55	4.25	4.00
5	4.05	4.40	4.45	4.33	3.00
6	4.49	4.57	4.64	4.25	4.50
7	4.12	4.10	4.64	4.25	3.50
8	4.30	4.23	4.73	4.25	4.00
9	4.16	4.77	4.36	4.00	3.50
10	3.88	3.90	4.55	4.58	2.50
11	4.51	4.57	4.73	4.25	4.50
12	4.74	4.73	4.91	4.83	4.50
13	2.00	2.69	3.00	1.33	1.00
14	2.58	3.57	2.60	2.67	1.50
15	4.28	4.50	4.60	4.00	4.00
16	4.19	4.50	4.50	3.75	4.00
17	3.96	4.03	4.30	4.00	3.50
18	1.01	1.05	1.00	1.00	1.00
19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
回答者数	55	30	11	12	2



受講生の傾向

基本的な知識に不足している学生が多かった。

戦略管理会計論、サプライチェーン・マネジメント論で系平均と離れる部分が見受けられるが、科目特性の反映であると考えられる。

倒産分析論の動向は計平均と大きく離れているが、比較的難易度が高く少人数であったことが強く反映していると考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

戦略管理会計論は基本的なポイントに絞って授業を進めた。

サプライチェーン・マネジメント論は最新の研究に注目して授業を進めた。

会計情報システム・倒産分析論についても同様である。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も科目特性(規模・内容など)を生かした授業を進めていく予定である。

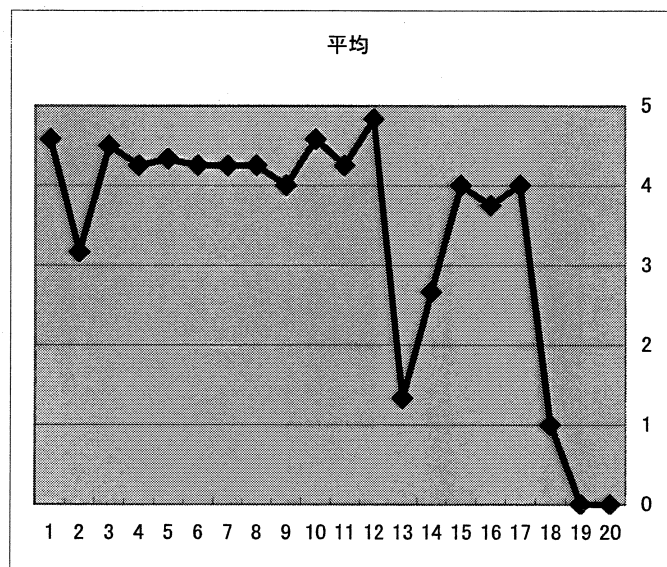
例えば少人数の科目については、更に学生ニーズや習熟度を加味することが求められるだろう。

科目： 公会計(自治体会計論)

受講者数： 6

回答者数： 5

質問No.	平均
1	4.60
2	3.40
3	4.20
4	4.20
5	4.60
6	4.60
7	4.40
8	4.60
9	3.50
10	4.60
11	4.60
12	4.80
13	1.60
14	1.80
15	3.80
16	4.00
17	4.40
18	1.00
19	0.00
20	0.00
回答者数	5



受講生の傾向

自治体会計に興味のある受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

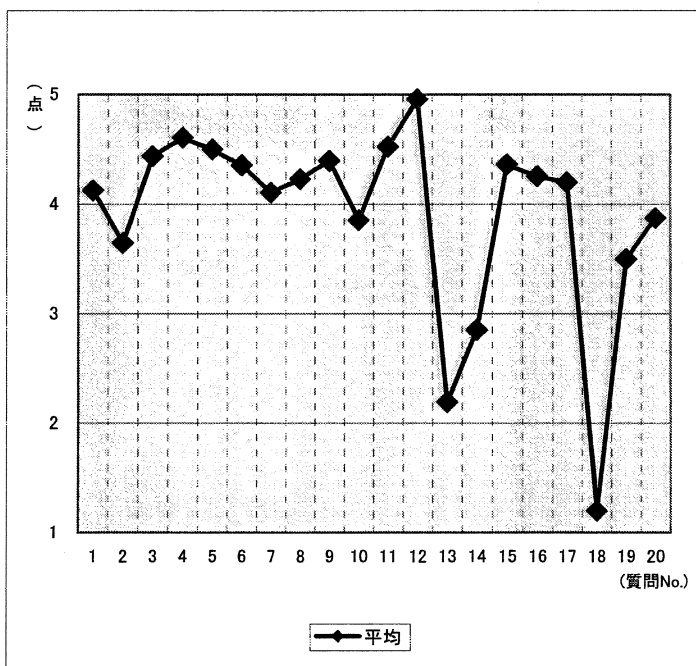
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

系:法律(会社法)

受講者数:76

回答者数:50

質問No.	平均
1	4.13
2	3.65
3	4.44
4	4.60
5	4.50
6	4.35
7	4.11
8	4.23
9	4.40
10	3.85
11	4.52
12	4.96
13	2.19
14	2.85
15	4.36
16	4.26
17	4.20
18	1.20
19	3.50
20	3.88
回答者数	50



受講生の傾向

研究科の特徴でもあるが、会計科目を得意とするが法律科目を苦手とする傾向がある。その反面、法律学を得意科目とし、また双方ともバランスよく理解できている学生もいる。法的な思考方法は、会計学を学ぶ上でも必要であることの認識があまりないようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

法律系科目をそれぞれ別個のものとして扱うのではなく、それぞれ連動させるよう心がけた。法律系科目の苦手意識をなくすために、なるべく専門用語については丁寧に説明し、基礎から理解できるように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

授業の範囲内で学習が終えられるよう、効率のいい授業を行いたい。
レジュメと板書のバラいすのいい授業を行いたい(特にホワイトボードが小さく使いづらく見づらかった)。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

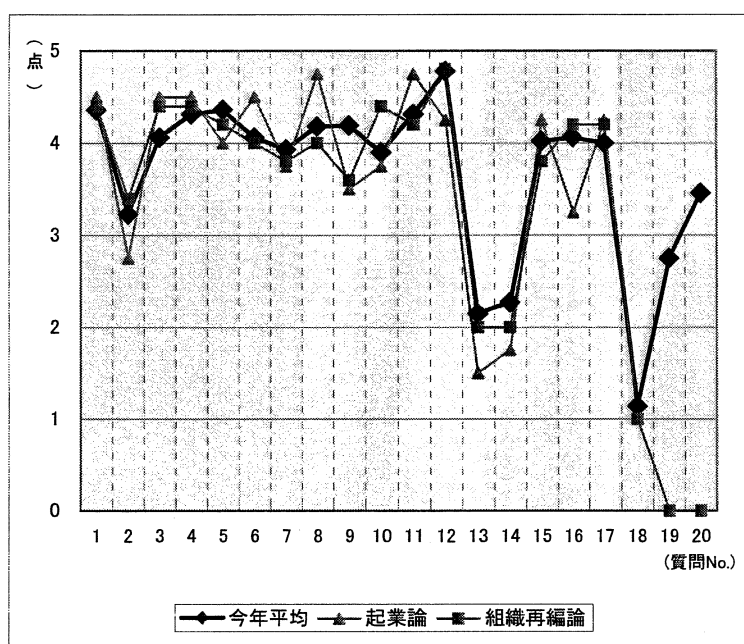
系全体としての連動をはかることのできるような授業にしたい。
限られた授業の範囲内で、量・質ともに十分な授業をできるように心がけたい。

系：経営

受講者数：17

回答者数：10

質問No.	今年平均	起業論	組織再編論
1	4.36	4.50	4.40
2	3.23	2.75	3.40
3	4.06	4.50	4.40
4	4.31	4.50	4.40
5	4.36	4.00	4.20
6	4.06	4.50	4.00
7	3.93	3.75	3.80
8	4.18	4.75	4.00
9	4.19	3.50	3.60
10	3.90	3.75	4.40
11	4.31	4.75	4.20
12	4.78	4.25	4.80
13	2.15	1.50	2.00
14	2.27	1.75	2.00
15	4.02	4.25	3.80
16	4.06	3.25	4.20
17	4.00	4.25	4.20
18	1.14	1.00	1.00
19	2.75	0.00	0.00
20	3.46	0.00	0.00
回答者数	10	5	5



受講生の傾向

起業論

まじめに授業に取り組む姿勢が見られた。

組織再編論

組織再編の実態について知る学生が少なかったため、現実の企業で起きていることの現実感が持ち難いようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度開講されておらず。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

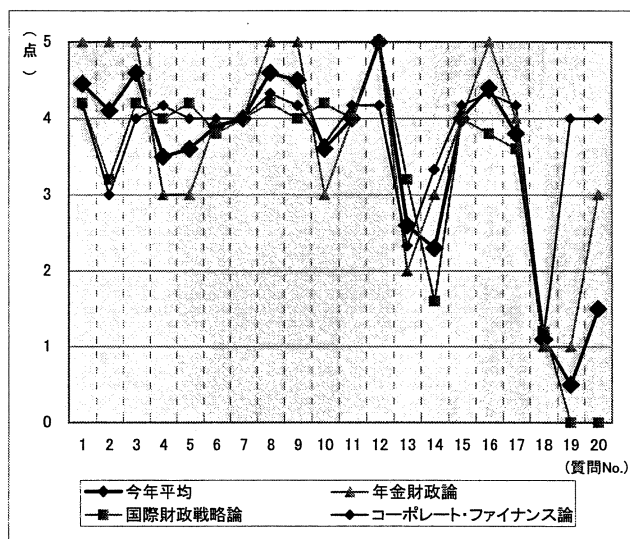
前年度開講されておらず。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

参加型の授業の要素をもう少し取り入れる。

系: ファイナンス
受講者数:32 回答者数:6

質問No.	今年平均	年金財政論	国際財政戦略論	コーポレート・ファイナンス論
1	4.46	5.00	4.20	4.17
2	4.10	5.00	3.20	3.00
3	4.60	5.00	4.20	4.00
4	3.50	3.00	4.00	4.17
5	3.60	3.00	4.20	4.00
6	3.90	4.00	3.80	4.00
7	4.00	4.00	4.00	4.00
8	4.60	5.00	4.20	4.33
9	4.50	5.00	4.00	4.17
10	3.60	3.00	4.20	3.67
11	4.00	4.00	4.00	4.17
12	5.00	5.00	5.00	4.17
13	2.60	2.00	3.20	2.33
14	2.30	3.00	1.60	3.33
15	4.00	4.00	4.00	4.17
16	4.40	5.00	3.80	4.33
17	3.80	4.00	3.60	4.17
18	1.10	1.00	1.20	1.17
19	0.50	1.00	0.00	4.00
20	1.50	3.00	0.00	4.00
回答者数	12	1	5	6



受講生の傾向

ファイナンス系の受講者は大きく2つに分けられる。一つは、コーポレートファイナンス論の受講者で、公認会計士試験の経営学の受験を予定している者が財務官理論の勉強の一環として受講しているものである。一方、他の科目は、公認会計士試験に必ずしも直結しておらず、将来の専門性を見据えた受講となっている。ただし、いずれにしても、科目の性格上、数学的な説明を行うことが避けられないが、十分に理解することができない学生が一部に見られる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

科目の性格上、数学的な説明を行わざるを得ないが、できる限り、図を使う、文章による説明を行う等により、理解を進めるとともに、より深い興味を持たせるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

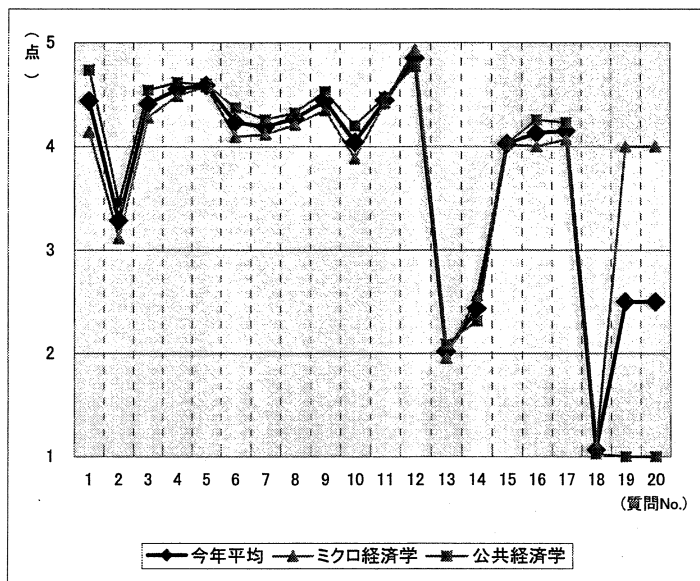
2年生配当科目である、年金財政論、国際財務戦略論は今回が初めてであり、手探りの状態で進めざるを得なかった。これらの科目は、そのカバーする範囲が広く、全体を概観するだけでもかなりの時間を要していたため、かなり授業の進捗が速くなった。今後は、ポイントを絞る等により、授業に十分ついてこれるだけの進捗を保ちつつ、将来を見据え、その授業の質を落とさないようにする。また、これらの科目は、性質上、数学的な説明を行わざるを得ないが、できる限り、図を使う、文章による説明を行う等により、理解を進めるようにする。

系: 経済・統計

受講者数: 14

回答者数: 8

質問No.	今年平均	ミクロ経済学	公共経済学
1	4.44	4.14	4.74
2	3.29	3.12	3.46
3	4.41	4.28	4.54
4	4.55	4.49	4.62
5	4.59	4.58	4.60
6	4.23	4.09	4.37
7	4.19	4.12	4.26
8	4.27	4.21	4.32
9	4.44	4.35	4.53
10	4.04	3.88	4.20
11	4.44	4.42	4.47
12	4.85	4.93	4.77
13	2.02	1.95	2.09
14	2.44	2.56	2.31
15	4.03	4.02	4.03
16	4.13	4.00	4.26
17	4.15	4.07	4.23
18	1.06	1.10	1.03
19	2.50	4.00	1.00
20	2.50	4.00	1.00
回答者数	8	2	6



受講生の傾向

経済学や統計学を受講する学生は、かなり論理的な分析についての志向をもつ院生が多い。その結果、最後まできちんと受講する院生は授業開始の頃と比較すると、非常によく考えて、応用力もかなり高度なものを得ることができている。そして、単に受講した科目のみならず、関連の科目の理解を深める力も身につけてきていると判断できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

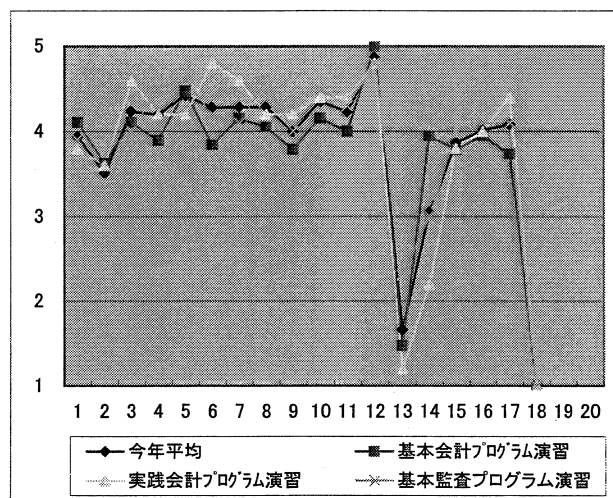
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

系: IT・(ビジネス)

受講者数:37 回答者数:34

質問No.	今年平均	基本会計プログラム演習	実践会計プログラム演習	基本監査プログラム演習
1	3.94	4.11	3.80	3.90
2	3.51	3.63	3.60	3.30
3	4.24	4.11	4.60	4.00
4	4.20	3.89	4.20	4.50
5	4.42	4.47	4.20	4.60
6	4.28	3.84	4.80	4.20
7	4.29	4.16	4.60	4.10
8	4.28	4.05	4.20	4.60
9	4.00	3.79	4.20	4.00
10	4.35	4.16	4.40	4.50
11	4.23	4.00	4.40	4.30
12	4.87	5.00	4.80	4.80
13	1.66	1.47	1.20	2.30
14	3.05	3.95	2.20	3.00
15	3.86	3.79	3.80	4.00
16	4.02	3.95	4.00	4.10
17	4.08	3.74	4.40	4.10
18	1.00	1.00	1.00	1.00
19	0.00	0.00	0.00	0.00
20	0.00	0.00	0.00	0.00
回答者数	34	19	5	10



受講生の傾向

コンピュータ(特にソフトウェアの仕組み)に関する知識のない学生がほとんどであったが、この点は、研究科の性質上、避けられない点である。

課題の提出率が非常に高く、課題を完成させることで、講義の目的を達成しようとする学生が多かった。

IT関係の講義が直接に公認会計士試験に関係しないことを理解している学生が多かった。

公認会計士業務と当該系科目との関係性への理解については、科目によって相違がみられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生が自分自身で考え、その考えが反映されるような実習を多くし、それらの実習、課題演習により学生の習熟度が上がるように努めた。

また、講義配布資料の作成にあたり、コンピュータ・ディスプレイのハードコピーを追加し、学生が復習しやすいようにした。

実習中の机間巡回には、消極的な学生に対して積極的に理解の確認を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

積極的な学生と消極的な学生があり、消極的な学生にも効果的な質疑応答を考える。

予習しやすいような教材を用意する必要がある。

公認会計士業務と本講義の内容との関係を伝え、意義を理解させる努力を講じる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、学生の利用しやすい教材改善に努める。

基礎的でありつつも、実践的な課題の作成を検討し、会計専門職としての将来のスキルアップの基礎となるように改善する。

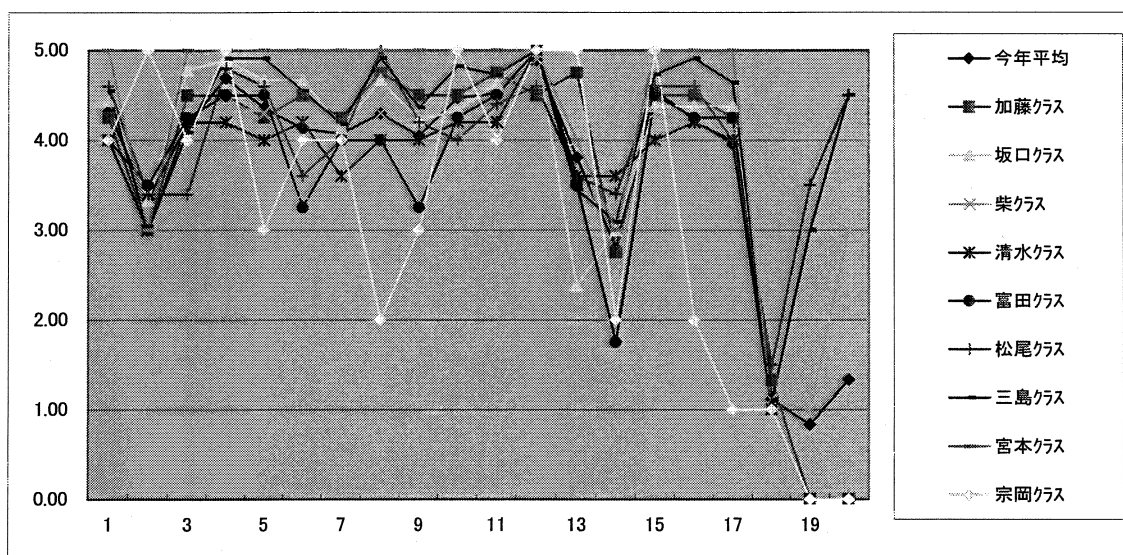
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

系:個別演習科目(アカデミック・ソリューション)

受講者数:69

回答者数:51

質問No.	今年平均	加藤クラス	坂口クラス	柴クラス	清水クラス	富田クラス	松尾クラス	三島クラス	宮本クラス	宗岡クラス
1	4.32	4.25	4.44	4.00	4.00	4.00	4.60	4.55	5.00	4.00
2	3.35	3.00	3.33	2.90	3.00	3.50	3.40	3.00	3.00	5.00
3	4.18	4.50	4.78	3.40	4.20	4.25	3.40	4.09	5.00	4.00
4	4.69	4.50	4.89	4.40	4.20	4.50	4.80	4.91	5.00	5.00
5	4.36	4.25	4.67	4.30	4.00	4.50	4.60	4.91	5.00	3.00
6	4.13	4.50	4.67	3.40	4.20	3.25	3.60	4.55	5.00	4.00
7	4.07	4.25	4.13	3.50	3.60	4.00	4.00	4.18	5.00	4.00
8	4.29	4.75	4.67	4.30	4.00	4.00	5.00	4.91	5.00	2.00
9	4.05	4.50	4.22	3.90	4.00	3.25	4.20	4.36	5.00	3.00
10	4.47	4.50	4.33	4.10	4.20	4.25	4.00	4.82	5.00	5.00
11	4.52	4.75	4.63	4.50	4.20	4.50	4.40	4.73	5.00	4.00
12	4.89	4.50	5.00	4.90	5.00	5.00	4.60	5.00	5.00	5.00
13	3.81	4.75	2.38	4.00	3.60	3.50	3.60	3.45	4.00	5.00
14	2.80	2.75	3.00	2.60	3.60	1.75	3.40	3.09	3.00	2.00
15	4.56	4.50	4.38	4.30	4.00	4.50	4.60	4.73	5.00	5.00
16	4.23	4.50	4.38	4.20	4.20	4.25	4.60	4.91	5.00	2.00
17	3.96	4.25	4.38	4.10	4.00	4.25	4.00	4.64	5.00	1.00
18	1.12	1.33	1.00	1.11	1.00	1.00	1.50	1.10	1.00	1.00
19	0.83	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	3.50	3.00	0.00	0.00
20	1.33	0.00	0.00	3.00	0.00	0.00	4.50	4.50	0.00	0.00
回答者数	51	4	9	11	5	4	5	11	1	1



受講生の傾向

学生が自ら希望して教員選択ができ、かつその授業内容も学生のレベルや希望に対応できる授業の特性から、学生のこの授業に対する満足度は高いように思われる。

加えて、以上の状況から、教員間にばらつきが見られないのもこの科目の特徴である。

また、必修や選択必修でもない課目でありながら、履修登録者も多く、学生のこの授業に対する期待の高さもうかがえる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

少人数教育であるので、学生個人に対応した指導を行った。

ゼミという特徴も同時に併せ持つ科目であるので、学生の学習上の相談にも積極的に応じるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生に対すてきめ細かな指導ができる点で、より多くの学生が履修してもらいたい。

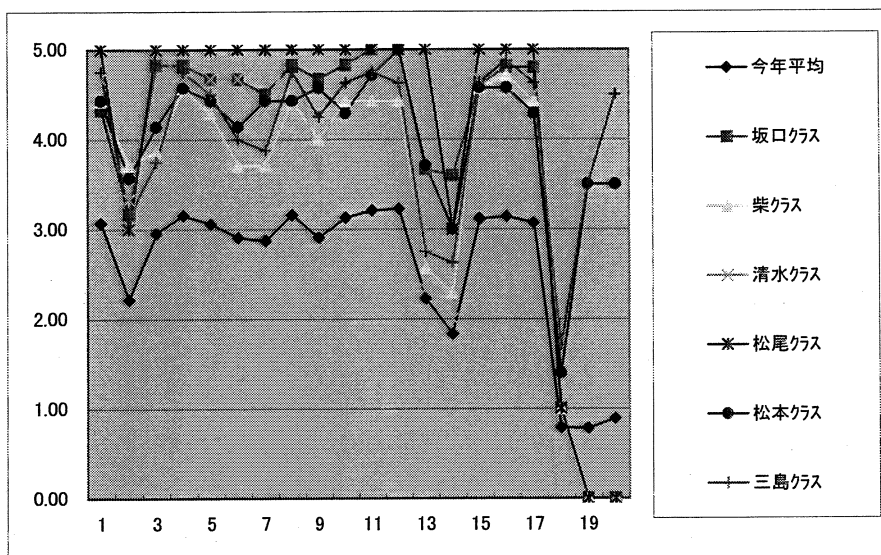
個別演習科目という特性上、学生へのよりきめ細やかなサポートをしていきたい。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューション)

受講者数:38

回答者数:32

質問No.	今年平均	坂口クラス	柴クラス	清水クラス	松尾クラス	松本クラス	三島クラス
1	3.07	4.33	4.43	4.67	5.00	4.43	4.75
2	2.21	3.17	3.71	3.33	3.00	3.57	3.13
3	2.95	4.83	3.86	5.00	5.00	4.14	3.75
4	3.15	4.83	4.57	4.67	5.00	4.57	4.75
5	3.06	4.67	4.29	4.67	5.00	4.43	4.50
6	2.91	4.67	3.71	4.67	5.00	4.14	4.00
7	2.87	4.50	3.71	4.33	5.00	4.43	3.88
8	3.16	4.83	4.43	5.00	5.00	4.43	4.75
9	2.91	4.67	4.00	3.67	5.00	4.57	4.25
10	3.13	4.83	4.43	5.00	5.00	4.29	4.63
11	3.21	5.00	4.43	5.00	5.00	4.71	4.75
12	3.23	5.00	4.43	5.00	5.00	5.00	4.63
13	2.23	3.67	2.57	2.33	5.00	3.71	2.75
14	1.84	3.60	2.29	2.00	3.00	3.00	2.63
15	3.12	4.60	4.57	4.67	5.00	4.57	4.63
16	3.14	4.80	4.71	4.33	5.00	4.57	4.88
17	3.07	4.80	4.43	4.50	5.00	4.29	4.63
18	0.79	1.00	1.00	1.00	1.00	1.40	1.71
19	0.78	0.00	0.00	0.00	0.00	3.50	3.50
20	0.89	0.00	0.00	0.00	0.00	3.50	4.50
回答者数	32	6	7	3	1	7	8



受講生の傾向

アカデミックソリューションと同様、学生の満足度の高い授業である。

さらに、教員間のばらつきが少ないという点でも同様である。

しかし、プロフェッショナルソリューションは、アカデミックソリューションに比べて履修者が少ないという点で異なる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

アカデミックソリューションと同様、学生個人に対応した指導を行い、個人的な学習相談にも応じるようにした。

アカデミックソリューションから引き続き同一教員で受講する学生とプロフェッショナルソリューションから受講する学生が混在するため、双方ともが受講しやすいような環境作りに努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

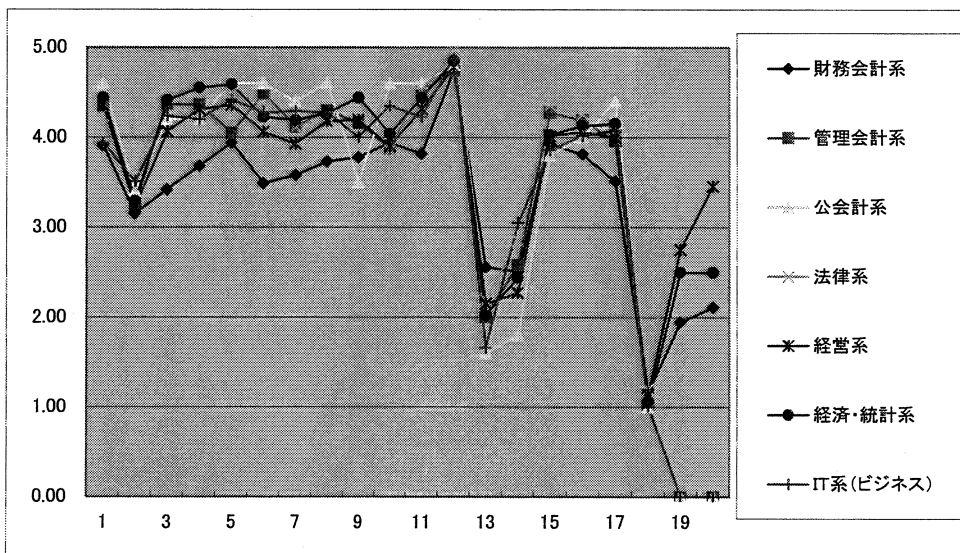
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

プロフェッショナルソリューションでは、アカデミックソリューションと異なり履修登録者が少なく、より多くの学生が履修するようにしたい。

アカデミックソリューションから受講する学生とそうでない学生とが混在するなかで、どちらの学生にとっても満足行くような授業を心がけたい。

系別平均

質問No.	財務会計系	管理会計系	公会計系	法律系	経営系	経済・統計系	IT系(ビジネス)
1	3.91	4.35	4.60	4.13	4.36	4.44	3.94
2	3.15	3.26	3.40	3.65	3.23	3.29	3.51
3	3.42	4.37	4.20	4.44	4.06	4.41	4.24
4	3.68	4.37	4.20	4.60	4.31	4.55	4.20
5	3.94	4.05	4.60	4.50	4.36	4.59	4.42
6	3.49	4.49	4.60	4.35	4.06	4.23	4.28
7	3.58	4.12	4.40	4.11	3.93	4.19	4.29
8	3.73	4.30	4.60	4.23	4.18	4.27	4.28
9	3.78	4.16	3.50	4.40	4.19	4.44	4.00
10	3.94	3.88	4.60	3.85	3.90	4.04	4.35
11	3.82	4.51	4.60	4.52	4.31	4.44	4.23
12	4.75	4.74	4.80	4.96	4.78	4.85	4.87
13	2.56	2.00	1.60	2.19	2.15	2.02	1.66
14	2.51	2.58	1.80	2.85	2.27	2.44	3.05
15	3.93	4.28	3.80	4.36	4.02	4.03	3.86
16	3.81	4.19	4.00	4.26	4.06	4.13	4.02
17	3.51	3.96	4.40	4.20	4.00	4.15	4.08
18	1.16	1.01	1.00	1.20	1.14	1.06	1.00
19	1.94	0.00	0.00	3.50	2.75	2.50	0.00
20	2.11	0.00	0.00	3.88	3.46	2.50	0.00
回答者数	105	55	5	50	10	8	34



受講生の傾向

受講生の自己評価と授業評価から受講生の感じ方の傾向が読み取れる。

回答数の多い4系統(財務、管理、法律、IT)と少ない3系統は単純に比較できない。

4系統では、①財務会計系の理解度が低く、法律系の理解度が高いこと、②逆に授業の進度は財務会計系が適度で、法律系とIT系が早いこと、③財務会計以外の3系統は復習型になっていること、といった顕著な特徴がみられる。

3系統は回答数が少ないので単純比較は難しいが、それでも①学生の理解度が高いこと、②授業の進度が適度であること、③復習型であること、が特徴となっている。

7系統全体でみても財務会計系の評価の低さが目立つ。教授法が理解度とどう関係しているかの分析が必要である。

今後の対応

授業の進度は他の系に比べて適切であるのに理解度が低いこと、他の系列に復習型が多いのに対して財務会計系はその特徴がないこと、より具体的には、クラス運営の方法に対する評価が低いことから、これらに個々の担当者が配慮することとする。

法律系とIT系に関しては授業の進度にゆとりを持たすように心がける。

Ⅲ. 19 年度 授業評価アンケートフォーム

「会計大学院学生による授業評価」アンケート

I. 授業の評価

II. 授業への取組み

III. 答案練習会について

I. 授業の評価

1) 授業内容は、講義要綱、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

2) この授業の進度はどうでしたか。

- 5. かなり早い
- 4. 早い
- 3. ちょうどよい
- 2. 遅い
- 1. かなり遅い

3) この授業は教員によってよく準備されていたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

4) 学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

5) この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

6) 教科書・配布資料の利用は適切でしたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

7) ホワイト・ボードや OHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。

- 5. 強くそう思う

4. そう思う
3. どちらともいえない
2. そう思わない
1. 全くそう思わない

8) 教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。

5. 強くそう思う
4. そう思う
3. どちらともいえない
2. そう思わない
1. 全くそう思わない

9) 宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。

5. 強くそう思う
4. そう思う
3. どちらともいえない
2. そう思わない
1. 全くそう思わない

10) この授業のクラスの規模は適切でしたか。

5. 強くそう思う
4. そう思う
3. どちらともいえない
2. そう思わない
1. 全くそう思わない

11) 全体としてこの授業を受講して満足しましたか。

5. 強くそう思う
4. そう思う
3. どちらともいえない
2. そう思わない
1. 全くそう思わない

II. 授業への取り組み

12) この授業への出席状況はどうでしたか。

5. 90%以上
4. 70%以上
3. 50%以上
2. 30%以上
1. 30%未満

13) この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。

5. 2時間以上
4. 1時間30分程度
3. 1時間程度
2. 30分程度
1. 0時間

14) この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。

5. 2時間以上
4. 1時間30分程度
3. 1時間程度

2. 30分程度

1. 0時間

15) この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたが。

5. 強くそう思う

4. そう思う

3. どちらともいえない

2. そう思わない

1. 全くそう思わない

16) この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。

5. 強くそう思う

4. そう思う

3. どちらともいえない

2. そう思わない

1. 全くそう思わない

17) あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。

5. 強くそう思う

4. そう思う

3. どちらともいえない

2. そう思わない

1. 全くそう思わない

Ⅲ. 答案練習会について

18) あなたはこの授業に対応した答案練習会に参加したことがありますか。

2. 参加したことがある

1. 参加したことがない

以下の質問は設問18で2（参加したことがある）と記入した場合のみ回答してください。

19) あなたはこの授業に対応した答案練習会にどのくらい参加しましたか。

5. 全部

4. 半分以上

3. 半分未満

2. 参加はしていないが、問題・解答用紙を受け取った

1. 参加したことがない

20) この授業に対応した答案練習会はこの授業の復習等に役立ちましたか。

5. 強くそう思う

4. そう思う

3. どちらともいえない

2. そう思わない

1. 全くそう思わない

——以上——

ご協力ありがとうございました。

IV. 講演会

客員教授講演会のご案内

関西大学会計専門職大学院では、日本学術振興会理事長・元文部科学事務次官の小野元之客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

入場は無料ですが、事前申し込み制となっております。興味をお持ちの方のご参加をお待ちしております。

記

1 日時 平成20年3月5日(水) 15:30~17:00

2 場所 関西大学千里山キャンパス 尚文館

3 講師 小野元之 客員教授

4 演題「教育再生の夢と大学改革」

5 申込方法

参加者のお名前(複数の場合は代表者名と人数)を次の方法により3月3日(月)までにご連絡下さい。

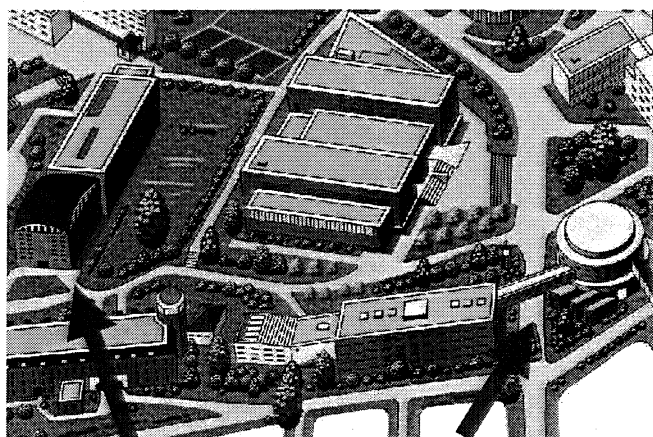
電子メール(宛先 seminar@jm.kansai-u.ac.jp)

FAX (06-6368-0610)

はがき(宛先 564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学会計専門職大学院 セミナー係)

6 参加費 無料

- ◆ お送りいただいた個人情報は、講演会開催の目的外には一切利用しません。
- ◆ お申込み後に大学からの連絡はいたしません。そのまま会場へお越し下さい。
- ◆ 自家用車での来学はご遠慮下さい。



尚文館

正門

お問合せ先

会計専門職大学院 電話 06-6368-1121(代)

<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0610